

令和 6 年度

第 2 回岐阜市立義務教育諸学校教科用図書採択検討委員会議事録

日時：令和 6 年 7 月 8 日（月）

午前 9 時 0 0 分から午後 4 時 3 0 分

会場：岐阜市教育研究所中舎 3 階大会議室

【事務局】

それでは、ただ今から、令和 5 年度 第 2 回 岐阜市立義務教育諸学校教科用図書「採択検討委員会」をはじめめる。

はじめに、採択検討教育長である教育長が挨拶する。

【教育長】

本検討委員会は、岐阜市立小学校教科用図書に関する検討を行い、採択権を有する岐阜市教育委員会に上程する採択候補教科用図書を決定する。

前回の第 1 回検討委員会で、調査研究の在り方について審議していただいた。

本日の第 2 回は、調査研究員会の調査研究の報告が適切で、十分なものであるかを審議していただきたい。

【事務局】

ここで、事務局からこれまでの経緯を報告する。

前回の第 1 回採択検討委員会の後、6/6、6/17、6/26 の 3 回、調査研究員会を開催し、教科・種目ごとに調査研究を進めてきた。お手元の資料が、調査研究結果である。本日は、資料にまとめられている内容について、教科・種目ごとに報告するので審議をお願いする。

前回の会でお諮りしたとおり、6 月 14 日から 28 日まで、市内 3 か所の会場で「教科書展示会」を行った。結果、3 か所合せて 174 名の来場者があり、137 件の意見をいただいた。それらの意見は、調査研究する際の市民からの貴重な意見として、調査研究員会で委員へ提供した。

本年度は市民へ広く周知するため、広報ぎふへの掲載だけでなく、岐阜市の公式ホームページ、教育研究所や各学校のホームページ、市の公式 SNS や会場での掲示物、掲示板により、市民へ関心をもっていただくようにした。一般の方のご意見が 127 件と昨年度と比較し、60 件ほど多かった。

本日の日程。国語から順に種目ごとに 10 分～20 分で調査研究の結果を報告する。その後、15 分程度、皆様からのご質問やご意見をいただく。最後に、採択権を有する教育委員会に本日の報告を議案として上程してよいか決定をしていただく。検討委員の皆さまは、様々な立場から参加していただいているので、幅広い視野からご意見をいただきたい。

各種目の報告は、前面モニターとスクリーンに資料を映しながら説明する。教科書の実物のページを提示することがあるが、教科書の発行者の意図を無視して、加工して提示することが禁止されている。よって、資料はすべて教科書のページそのものを

提示し、必要に応じて一部分を拡大して提示する。それでも資料が見にくい場合がある。机上に、各種目教科書を用意している。教科書を手に取りながら、聞いていただければと思う。

本委員会の内容については情報公開の対象になるので、議事録をとらせていただく。9月1日の情報公開の際には、任期途中となる皆様の名前は出さない形となるが、会議の議事録はホームページに掲載する。それでは、採択検討委員会規則の第5条により、ここからは、教育長に進行をお願いし、議事に入る。

【教育長】

検討委員会規則第5条第2項で、「委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と定められている。

委員13名中、本日は10名に出席いただいているため、本会議は成立する。これより議事に入る。

まず、教科「国語」、種目「国語」の調査研究を報告する。

【国語：主任研究員】

第4期岐阜市教育振興基本計画に示された「一人ひとりのよさが輝き、互いに求め合う心を育む教育」、「主体的かつ協働的な学びを通じて、未来への礎となる力を育てる教育」、「その子らしさを生かし、可能性を伸ばす教育」、「このまちと人から「生きる」を学び、社会参画する力を培う教育」「新しい時代の学びにつながる、教育システムの整備」という方向性を柱に調査研究を進めてきた。

調査の対象となった教科書は4者。各者、学習指導要領の趣旨をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等の観点からも、教材配列を工夫している。

学習指導要領では、国語科で育成を目指す資質能力として「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と示している。そこに示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をもとに、生徒の発達の段階をふまえ、教材を選んでいく必要がある。その上で、生徒自らが「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるような言語活動を授業の中で行っていく必要がある。

各者、単元のはじめに、「話す・聞く」「書く」「読む」というように、扱う言語活動、領域を明記し、そのあとに、「視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう」など「言葉による見方・考え方」をはたらかせる単元名を設定している。

こうした教科書の内容をふまえ4項目、10の着眼点を設定した。4者それぞれが、様々な工夫を行い、生徒が確実に言葉の力を身に付けられるように工夫している。各者のよさの概略を伝える。

まず、東京書籍。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域が重ならないようバランスよく配置しつつ、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という3つの柱を大切にする単元構成となっている。教材末に「てびき」を位置付け、学習の仕方や読みの視点を具体的に

に明示することで、考えをまとめていく言語活動のステップがつかみやすくなっている。さらに「言葉の力」というヒントコーナーを設けることで、考えをもつための手がかりを示している。また、「振り返る」によって生徒が自らの学習を評価し、次の学習に生かしやすくなっている。領域ごとに二次元コードが用意されており、作者・筆者の言葉などの映像資料だけでなく、文法ゲーム、思考のヒント等、充実している。また、二次元コードを読み込むと何ができるかが記載されており、学習者も指導者も使いやすくなっている。「書くこと」「話すこと・聞くこと」領域では、身近な地域の中から題材を決め、郷土について深く考えることのできる単元が設定されている。「読むこと」領域では、命に関連する教材があり、生徒が生命の尊厳や自由の相互承認について考えることができる。

次に、三省堂。東京書籍同様に、各領域が重ならないようバランスよく配置しつつ、3つの柱を大切に単元構成になっている。教材末の「学びの道しるべ」には、「思考の方法」が位置付けられており、どのように考えをまとめたり、考えを伝え合ったりすればよいか分かりやすくなっている。そして、それらの方法を活用しながら、考えを形成することや共有することに焦点を当てた言語活動が示されている。各学年にグループディスカッションやグループ新聞などの仲間と協働的な学びを進めていく学習活動が設定されている。また、単元と関連する豊富な資料が示されており、その中の二次元コードを利用した動画資料やデジタルドリル等のコンテンツを活用することで、個の特性や学びの進度に応じた個別最適な学びにつながるように構成されている。巻末には、コンテンツ一覧が示されていて使いやすくなっている。どの教材も終末には「学びを振り返る」が位置付けられており、端的に示された「振り返りのキーワード」を活用することにより、学んだことを適切に表現した学習の振り返りをしたり、次の学習へつなげたりすることができるよう工夫されている。

次に教育出版。2者同様に、各領域が重ならないようバランスよく配置しつつ、3つの柱を大切に単元構成になっている。また、身に付けたい力の具体化、言語活動例の提示により、生徒が学びやすく教材研究がしやすい単元構成になっている。語彙を豊かにする指導については、系統的かつ、重層的に繰り返して学習ができるように小単元が配置され、習熟が図れるよう工夫されている。「書くこと」領域では、各学年の発達段階に応じた多様な言語活動が設定されている。例えば、投書や手紙・メール、連作ショートショート等がある。自らの意見を述べる文章を書く活動が多く、各教材の特質に応じて位置付けられている。「学びナビ」は、指導の見通しをもったり評価の観点を把握したりしやすくなっている。また、「みちしるべ」によって学習方法を段階的に考えていく手立てがあり、個の特性や学習進度に応じた学びが推進できる。教材末の「振り返り」は、分かったことやできたこと、次の学習に生かしたいことがまとめられるようになっており、学習改善につなげることができる。

次に光村図書。資料10、11ページ。この教科書も、前出の3者同様、各領域が重ならないようバランスよく配置しつつ、3つの柱を大切に単元構成になっている。各領域・各事項の内容が細分化され、バランスよく配分されており、指導すべき

内容が分かりやすくなっている。語彙について、系統的・重層的に繰り返し学習ができるように小単元が配置され、習熟が図れるよう工夫されている。また、「言の葉ポケット」「語彙ブック」は、学習活動を通じて常に言葉に着目し、語彙を広げたり語感を磨いたりすることに有効であると考ええる。教材末に位置付いた、『振り返る「知る」「読む」（または「書く」）「つなぐ」』では、教材の学習内容を整理して示し、生徒自身が「何ができるようになったか」を自分の言葉で言語化することで、資質・能力を確実に定着させるように工夫されている。二次元コードによる豊富なコンテンツには、生徒が書き込める内容もあり、生徒が個々の学びを自ら深めたり広げたりできるようになっている。本文は文字の指導に適している教科書体や明朝体を使用し、重要項目はゴシック体を用いる等して見やすくなっている。各行の下に数字と点を付し、文章の行数を示している。全体として、学習の流れや重点を明示し、学習の用途に応じて紙面構成を統一している。

このように、各者のよさの概略をまとめたが、前述の4項目、10の着眼点に基づく総合的な評価として、「東京書籍」と「三省堂」「光村図書」の評価が高くなった。

この評価の理由について、調査項目や着眼点に基づき、一部を説明する。まず、調査項目1「学習指導要領・資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」について、着眼点は、1―(1)について説明する。ここでは、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という資質・能力の3つの柱を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動を考慮し、バランスよく各学年に配分されているかについてみてきた。3者ともに、「3つの柱」については、丁寧に扱っている。ただし、その扱い方については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動における領域に差異がある。

まず、東京書籍の領域ごとの教材数について。各領域で扱う教材の数について、学年によっての偏りが少ないことが特徴として挙げられる。

次に、三省堂。こちらも、各領域で扱う教材の数について、学年によって、大きな偏りはない。「言葉の使い方や特徴」についての内容が他者と比べると少ない。

次に、教育出版。こちらも、各領域で扱う教材の数について、学年によって、大きな偏りはない。

最後に、光村図書。こちらも、各領域で扱う教材の数は学年によって偏りはない。特徴的なのは「読むこと」や「書くこと」、「話すこと・聞くこと」領域における教材の数が他者に比べて非常に多い構成となっており、「我が国の言語文化」に関しても同様に他者と比べ、多くあった。これは、生徒にとって、多くの教材・題材に触れることができ、また、指導者側としても指導内容を細分化できるため、各領域で多様な力を身に付けることができると考える。

次に語彙を豊かにする内容について。光村図書には、「語彙ブック」「言の葉ポケット」があり、生徒が学習活動で常に言葉に着目して学ぶことができるようになっている。また、語彙を広げたり、語感を磨いたりすることにも有効だと考える。このような理由から、光村図書を◎、他者を○と評価した。

続いて、着眼点1－(2)について、読書指導の面を例に述べる。

三省堂では、中学生へのおすすめの本がジャンルごとに掲載されている。それに対して、光村図書では、生徒目線での、読書案内をしており、画面右側にあるように、中学校の1日の生活とリンクさせたり、様々な分野の図書を掲載したりして、どの生徒にも興味をもてるようになっている。このような工夫があり、光村図書を◎とした。

続いて、調査項目2「第4期岐阜市教育振興基本計画「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」について、まず、着眼点2－(2)について説明する。

三省堂では、教材末に「学びを振り返る」を配置し、「振り返りのキーワード」を太文字で提示している。生徒がそれを手掛かりに学習内容を振り返えるが、大まかであり、取りかかりに戸惑う生徒もいると考えられる。また、学習内容や展開も見通しがもてるが、単調な色使いで重点が分かりづらい。一方、光村図書では、教材末に「振り返る」を配置し、「知る」「読む」(または「書く」)「つなぐ」の3段階で生徒自身が「何ができるようになったか」を自分の言葉で言語化することで、資質・能力を確実に定着させられるように大変工夫されている。また、学習内容や展開も重点内容には色が付いており、教師も生徒も大変分かりやすいものとなっている。

続いて、2年生の「読むこと」領域の教材「走れメロス」を例に説明する。光村図書では、教材の始めのページに学習目標のみではなく、学習活動についても明示してある。さらに、その学習活動における観点を具体的に記してあるため、生徒あるいは教師の学習改善や学習評価につながる有効な手立てになっている。一方、教育出版は各単位時間の目標が記してあり、その時間に何を大切にすればよいのかが明らかになっている。ただ、従来通りの構成なので学習評価に関しては、光村図書と比較すると特筆すべき点はない。

続いて、着眼点2－(3)について、生徒がICT機器を活用して学習に取り組むためのコンテンツに誘う工夫等について説明する。それぞれのデジタルコンテンツの位置付け方や一覧から説明する。

まず、東京書籍。各学年の巻末に「デジタルコンテンツ一覧」というページを設け、ICTを活用するためのデジタルコンテンツの一覧が掲載されている。色分けされていて各領域で分類されていることはわかる。ただこのページの二次元コードには、内容が分かるように示されておらず、何の資料が閲覧できるか明確ではない。

次に、光村図書。各学年の巻末に「ICT活用のヒント」が位置付けられている。ここには、デジタルコンテンツ一覧が領域別に整理されて色分けして書かれている。また、どの領域に対するものか記載され、資料を探すときに役立つ。また、示された二次元コードが何の資料につながるものなのか明記されている。2者とも適切に色分けされ、整理された一覧を用意しており、どちらも◎と評価したが、光村図書の方がより利用しやすいと考える。OECDが行う国際的な学習到達度調査(PISA)において、読解力が低下したという話がある。その一因としてPISA調査がコンピュータ上でのテストを実施したことがあげられる。日本でもCBT化を進めていこうという動きもある。光村図書には他の教科書にはないCBT化への取り組みとして、「国

語の力試し」というコンテンツが追加されている。タブレットやパソコンを利用してウェブサイト上の問題に取り組むことができる準備もされている。

最後に、調査項目4「印刷・製本等」。ここでは着眼点4-(2)について、特に書体や印刷の濃さ、使用されている紙の質に関わって説明する。画面ではわかりにくいいため、実際に教科書を手に取っていただきたい。

まず、教育出版。大きな字で、下部に行番号と「・」が示されて見やすい紙面になっている。ただし、文字は大きいですが字体そのものが細く、字が薄く感じてしまう。

次に、光村図書。教育出版よりは少し小さな字だが、オリジナルの教科書体は文字の太さがよく、はっきりと字を見ることができる。さらに唯一ページ番号が上部に示されており、内容を確認しながらページを見つけることができる特徴もある。使われている紙の色合いも他者に比べてやわらかいものとなっている。よって、光村図書を◎とした。

結果として、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が育つ魅力ある教材が豊富であること、生徒自らが「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるような言語活動がより工夫されていることという点を総合的に判断して、光村図書が優位であると判断した。

【教育長】

種目「国語」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

4者共通に扱う教材はあるのか。共通の教材の扱いについて、光村のよさはあるか。他者との扱いの違いはあるか。

【主任研究員】

伝統的に残る教材、3年生「故郷」が共通教材である。読むことの教材で、多くの時間を費やす教材である。教材から学んだことから、自分の考えを形成していく学習活動を行う教材である。各者の扱いの違いはそれほどない。作品を読み味わい、今の社会について自分の考えを形成していくための教材である。故郷は訳者によって表現の違いがあり、教材のイラストも各者違いがある。光村図書はイラストが荒いが、子どもたちの思考を狭めない点でより適正であると思われる。

【採択検討委員】

三省堂と光村図書の違いは「故郷」最初の目標が違っている。光村図書の目標の方がより分かりやすい。教材の最後にある「学びの知識」も文言の深さがあり、詳しく、振り返りの項目についても、光村図書の方が思考を深める投げかけが工夫してある。

【教育長】

定番の教材がある。「少年の日の思い出」などある。最初の目標の表現が気になっている。光村図書は「故郷」における目標が「登場人物の行動や考え方を批判的に読むことを通して、作品を批評しよう」東京書籍「作品から読み取ったことをもとに、自分の考えをもとう」など、表現が違う。同じことを言っているようだが、表現が違う

と考えてよいのか。

【主任研究員】

子どもたちに課題を与えるとき、より深い学びができるのは光村図書である。

【採択検討委員】

言語活動の充実、光村図書がよいことは感じた。岐阜市の教育大綱では、生命の尊厳があるが、光村図書は評価が○だが、光村図書の生命の尊厳の扱いの特徴はあるか。

【教育長】

着眼点3に関わることの質問について、どうか。

【主任研究員】

生命の尊厳に関わることは、どの発行者も取り上げている。具体的な題材ではなく、総合的に判断して、内容が東京書籍の方が命を扱う教材が多かった。特に3年生で、扱いにおける光村図書の軽さは無い。

【採択検討委員】

光村図書は言語活動の充実、言葉に着目する点、全教科の活動につながる活動であることも分かる。読解力が注目されていて、PISA2022の調査では、日本は3位で過去最高であった。多くの文章を読むことや、語彙についても知識が求められる。数学でも、文章を用いた問題があった。その点において、読む、書く、読書の大切さがわかる。着眼点3に関わって、ぎふMIRAI'sの探究が注目されている。探究の過程を大事にしながら、アウトプットも大事にしなければならない。光村図書の最初の7ページの思考の地図は、探究に役立つ。他の教科書も探究に役立つページはあるか。

【主任研究員】

各者、探究に力をいれているが、東京書籍は「思考のヒント」のような、考え方のヒントが掲載されているが、光村図書の「学びの地図」が際立ってよかった。

【事務局】

評価一覧の1（2）光村図書○でよいのか？

【主任研究員】

○は誤植。◎が正しい表記である。訂正をお願いする。

【教育長】

岐阜市にふさわしい教科書の点で、東京書籍に朝井リョウが取り上げられているが、他の教科書にも郷土作家は取り上げられているか。ぎふMIRAI'sの観点でも郷土作家に着目するのもよいかと思う。

【調査研究員】

朝井リョウ以外は把握していない。

【教育長】

それでは種目国語の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。（全員挙手により承認）
続いて、教科「国語」、種目「書写」の調査研究を報告願う。

【書写：主任研究員】

書写も、「国語」同様、第4期岐阜市教育振興基本計画に示された「一人ひとりのよさが輝き、互いに求め合う心を育む教育」、「主体的かつ協働的な学びを通じて、未来への礎となる力を育てる教育」、「その子らしさを生かし、可能性を伸ばす教育」、「このまちと人から「生きる」を学び、社会参画する力を培う教育」「新しい時代の学びにつながる、教育システムの整備」という方向性を柱にし、調査研究を進めてきた。

調査の対象となった教科書は、これも「国語」と同じ4者。各者、学習指導要領の趣旨をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等の観点からも、教材配列を工夫している。学習指導要領では、国語科で育成を目指す「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が規定されているが、そこに示された「知識及び技能」の「(3)我が国の言語文化に関する事項を身に付けることができるように指導する」の部分に、書写の内容が位置付けられている。書写が、言語活動を支える基礎的な役割を果たすことが、より明確になっている。各者、単元のはじめに、「大きさ」「配列」「組み立て方」というように扱う学習課題を明示し、その中に「生活に広げよう」など、言語活動や他教科での活動の中で活用できるよう、単元を設定している。こうした教科書の内容をふまえ、私たちは、教科用図書の研究・調査を進めるにあたり、4項目、10の着眼点を設定した。資料は3ページ。着眼点は「種目 国語」とほぼ同じだが、書写ならではの内容を鑑み、調査の方法を設定し、調査研究員で評価した。4者それぞれが、様々な工夫を行い、生徒に確実に言葉の力が育つよう工夫をしている。

それではまず、各者のよさの概略を示す。お手元の資料、各者調査研究資料②③。

東京書籍について説明する。「何を学習するのか」、「どんなことに気を付けるのか」という学習のポイントをまとめた「書写のかぎ」が位置付けられ、文字を正しく整えて書くために必要な知識、技能を分かりやすく示している。また、毛筆で学んだ動きを生かして硬筆で書く「生かそう」のコーナーが位置付けられている。練習できる文字も豊富であり、より日常生活を意識したものとなっている。

次に三省堂について。各教材を見開きで構成し、全ての教材に学習目標と振り返りを設置し、さらに、「書き方を学ぼう」で書き方のポイントを取り上げ、学習すべき内容がひと目で分かるようになっており、見通しをもって学習を進められるものとなっている。また、楷書と行書を縦に並べて書き方のポイントを数字や矢印で具体的に示しており、分かりやすいものとなっている。

次に教育出版。単元のはじめに、扱う学習課題を明示し、その上で具体的な活動を示し、他教科や生活の中でも活用できるよう、単元を設定している。1時間の中で「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」という学びの流れがあり、自ら自身の学びの変容が自覚できるようになっている。中学校で新たに学習する行書にかかわって、手本に筆脈が書かれており、行書の筆運びが分かりやすくなっているという工夫がなされている。

次に光村図書出版。学習の進め方を教科書見開きで4つのステップ「考えよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返ろう」と示し、生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができる工夫がなされている。また、行書文字を整えて書くときに意識するポイントを「行書スイッチ」として位置付け、教書の特徴を理解し、主体的に学習に取り組むことができる工夫がなされている。

このように、各者のよさの概略をまとめたが、前述の4項目、10の着眼点に基づく総合的な評価として、東京書籍と光村図書出版の評価が高くなった。ここからは、この2者、東京書籍と光村図書出版を中心にして説明する。調査項目1「学習指導要領・資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」について。まず、着眼点【1—(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成】について。ここでは、今後の書写学習の基本となる「点画の種類」がどのように扱われているかということについて見ていった。

まず、東京書籍。中学校の書写の導入ということで、基本の点画の書き方のポイントを以下のように丁寧に説明している。穂先の向きを中に位置づけている点、筆の動きを分かりやすくするために「とん、すう、ぴた」というリズムで表している点、具体的な文字のパーツとして図示している点、漢字のみならず、ひらがなのポイントも明示している点以上のように、大変イメージのしやすい構成となっている。

次に、光村図書出版。こちらも基本の点画の書き方を扱っている。穂先の向きや書き順は示されているが、ポイントの解説が少なく、基本の習熟という意味では、やや丁寧さに欠ける。よって、ここでは、東京書籍を◎とした。

次に、着眼点【1—(2) 他教科等の学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性】について。ここでは特に、他の教科や活動への関連がどのように扱われているか、その後の学習や生活にも生きてくる硬筆の取り扱いについて説明する。

まず、東京書籍。「職場訪問をしよう」というページでは、学習内容を具体的にどのように生かすことができそうかということ、実際の場面を例示して分かりやすく示している。具体的には、「手紙」「メモ」「お礼状」「報告のポスター」「レポート」である。場面を想定した提示は、イメージしやすくていいへん有効である。次に、硬筆の取り扱いについて。学習したことを、ポイントを生かして練習するように位置付けてある。

次に、光村図書出版。こちらも「防災フェスタを開こう」という教材を掲載し、「ポスター」「案内板」「看板」等につながる資料を提示している。書写の学習が他の活動に生かせることを実感させられ、学習に必然性を持たせている。次に、硬筆の取り扱いについて。学習したことを、熟語として練習するように位置付けてある。また、別冊の「書写活用ブック」ともつなげることで、より多くの文字を練習できるように工夫されている。それぞれの発行者で工夫がなされているため、ここでは両者に◎をつけた。

次に、着眼点【1—(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】につい

て。ここでは、書写の学習の進め方についてみた。

まず、東京書籍。学習の流れを「1 見つけよう→2 確かめよう→3 生かそう」で示しており、生徒自身が学習の流れをつかみ、見通しをもって主体的に学習を進められる工夫がしてある。3 の生かそうでは、部首を明記し、楷書との違いを意識して練習できる工夫がなされている。また、「単元で何を学習するのか」、「どんなところに気を付けるのか」という学習のポイントをまとめた「書写のかぎ」を位置付け、文字を正しく整えて書くために必要な知識、技能を分かりやすく示している。

次に、光村図書出版。こちらでも学習の流れを「1 考えよう、2 確かめよう、3 生かそう」と示し、生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができる工夫がなされている。また、「学びのカギ」を位置付け、ポイントを分かりやすく示している。「生かす場面」の扱いの差によって、ここでは、東京書籍を◎とした。

続いて調査項目2「第4期岐阜市教育振興基本計画「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」について。まず、着眼点【2—(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】について。ここでは、現在、重視されている「個別に学びを選択し学びを進めるような学習内容」、「協働的に学びを進めるような学習内容」が、どのように取り上げられているかについてみた。今回は、3年生の「文字を使い分ける、使いこなす」学習内容で説明する。

まず、東京書籍。ここでは、「身の回りの文字の目的と工夫」と題し、身の回りにある様々な文字に着目し、字体や目的、場所等さまざまな視点から考え、話し合うことができるように工夫されている。

次に、光村図書出版。こちらは「全国文字マップ」と題し、全国各地の石碑に書かれた文字について、字体や受ける印象について話し合う活動が位置付けられている。私たち岐阜市の「長良川」の文字も取り上げられており、親しみは感じるところだが、話し合うという点で考えた場合、観点が少なく、協働的な学びを進めるという点で弱さが見られる。こうした内容をふまえ、ここでは、東京書籍を◎と評価した。

次に、着眼点【2—(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価】。ここでは、振り返りがどのように位置付けられているかということについてみていく。

まず、東京書籍。「振り返ろう」を位置付け、自分の書いた文字を見返して「この時間に何を理解したのか」を振り返る構成となっている。

次に、光村図書出版。こちらは、「振り返る」という表記がなく、学習の振り返りという点では、やや丁寧さに欠ける部分がある。

次に、着眼点【2—(3) ICTを活用した学習活動】について。ここでは、児童がICT機器を活用して学習に取り組むためのコンテンツに誘う工夫等についてみてきた。今回は、二次元コードがどのように配置されているか調査した。

まず、東京書籍。手本のページは左下に、それ以外の資料は右下にと統一して配置されている。しかし、どんな内容の二次元コードなのか開いてみないと分からない。

次に、光村図書出版。二次元コードは主にページ下部に配置されている。「動画」「ほかの文字にもチャレンジ」「アニメーション」など、二次元コード先の内容が簡単に明

記されており、内容の見当がつけやすくなっている。こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書出版に◎をつけた。

続いて調査項目3「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」について。着眼点は【3－(1) 岐阜市の生徒の実態等に適した教科用図書】。ここでは、身に着けた力を日常生活やぎふMIRAI'sなどに生かすことができる教材はどの程度の分量であるかについて、みていった。

まず、東京書籍。手紙、葉書、メール、入学願書、原稿用紙、のし紙等、17種類の具体例を13ページにわたって詳しく掲載してある。

次に、光村図書出版。手紙、葉書、メール、入学願書、原稿用紙、送り状など13種類の具体例を8ページにわたって掲載している。より多くの種類を詳しく丁寧に掲載しているという内容をふまえ、ここでは、東京書籍に◎をつけた。

最後に、調査項目4「印刷・製本等」について。ここでは着眼点【4－(3) その他使用上の便宜】にかかわって、練習教材等にどのような特徴があるかについてみた。

まず、東京書籍。練習教材としての位置付けは無いが、学年ごとに「書写テストに挑戦」というページを配置し、学んだことの理解の程度が確認できるようにしている。

次に、光村図書出版。こちらは、学んできたことと同じ要素を持つ硬筆練習ノートや書写テストが豊富に設定してあり、学んだことのより深い定着と、学んだことがどの程度理解できているかの把握ができるようになっている。こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書出版に◎をつけた。

評価点の高い東京書籍と光村図書出版の2者の共通点や相違点を中心に整理してきたが、「我が国の言語文化に関する事項を身につけることができる」という点で、東京書籍が望ましいと報告する。

【教育長】

種目「書写」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

東京書籍がよいと思った。実際、筆で書く場合、光村図書の見開きでの表示は、半紙の大きさでよいのか。ヒントを見ながら書くことは少ないのではないか。東京書籍のお手本は半紙の大きさではないが使いにくくはないか。ヒントの掲載は余分では見にくい。光村図書の80ページ。手書きの例の具体。筆記用具の線の違いが具体的な使い分けの事例がよい。ICTについて、116ページに、デジタルの場合の気を付ける点が書かれているのがよい。

【主任研究員】

お手本の大きさについて、光村は半紙の大きさの手本が提示され、文字と名前のバランスも分かりやすい。実際に書く場合、机に置ききれない。教科書を置くスペースはない。半紙大の大きさが必要な生徒もいるので、教師が半紙大に印刷して提示することも必要。各者、半紙の大きさになるよう、縮尺の数値が提示されている。

筆記用具の事例、書くことの大切さも重要。東京書籍も筆記具の具体例はある。光

村図書の半紙大のお手本もよいが、総合的に判断して東京書籍がよい。

【採択検討委員】

東京書籍は課題を見付ける学習の流れが位置づけられている。光村は左きき用の提示がある。

【主任研究員】

「見つけよう」の課題から始まる。東京書籍は話し合う活動も入れている。ただ文字を練習するだけではなく、日常に生かしたり、自分で考えたりする活動も取り入れている。左手で書く配慮は、各者、不都合のない画面構成になっている。教科書に硬筆で書き入れる場合、上にお手本があり、中央に練習の枠があるため左右両方で書くことに対応している。

【採択検討委員】

文字を書くことについて、ペンより、打つ時代。スピード感が大事。年賀状も手書きで書く必要はない。光村はタブレットで書く姿勢まで提示してある。書き順もあまり重視されない時代。書写（手書き）にこだわるスタンスなのか、手書きとパソコンの混在の時代。書くこと（手書き）にこだわる教科書を選ぶのか、時代の流れをとらえる教科書を選ぶのか。

【主任研究員】

委員会の総意ではないが、個人として、様々な技術の進展によって、入力も必要である。文字を書く文化を大切にしていきたい。翻訳機能があれば、英語の学習は必要なのかということではない。文字を書かない弊害はいつ出るのかわからない。文字文化の重要性は残していきたい。国語の授業でも手書きの指導も大切にしていける。

【採択検討委員】

書写でも、タブレットを活用してもよいと思っている。ただし、手書きのよさも認識しながら学習していくことが大切であると考えている。

【教育長】

13ページの2（2）は○でよい。（主任研究員承知）

それでは種目書写の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。（全員挙手により承認）

続いて、教科「社会」、種目「地理」の調査研究を報告願う。

【地理：主任研究員】

見本本として4者から送付があったので、1ページにある着眼点に基づき調査研究した。最初に、各者の特色について説明する。

東京書籍は、単元を貫く探究課題と学習プロセスを配置しており、無理なく課題解決的な学習に取り組める構成になっている。単元の終末には194～195ページのように「まとめの活動」を位置付け、単元ごとに異なる思考ツールによる学習のまとめ方を掲載しており、知識の定着や思考の整理を十分に行いやすい構成になっている。さらに、多様な協働的な学習を位置付けている。また、227ページのように豊富な

「インタビューコラム」を設け、実際に社会に参画している人々の生き生きとした姿から、自らの生き方やキャリア形成について十分に考えられるように工夫しており、社会参画に向けた主体的な態度を養うという点からも非常に活用しやすい内容。

教育出版は、問いを軸にして課題解決的に追究していく構成であり、生徒の学習意欲が連続しやすくなっている。また、生徒の主体的な学習を促すために、新鮮な驚きを覚えるような写真資料を中心に構成している。184～185ページのように、各章の「学習のまとめと表現」に、グループでの対話的な活動を想定した多様な問いを示しているのも特徴。また、各節を貫く課題やSDGsに示された目標を視点にして学習を広げたり深めたりする特設ページ「クロスロード」は、230ページのように地球的課題の解決に向けた社会参画の意識を高めようとしている。

帝国書院は、章・節・各本文ページそれぞれの冒頭にある問いと課題をもとに、協働的に学習する場面を設定している。180ページの「学習を振り返ろう」で、章・節の問いに取り組ませる構成になっており、生徒の学習意欲が連続する学習活動が展開できる。解が多様な課題解決型学習を通して、意見交換や発表をする対話型の学習活動を豊富に設定している。また、219ページのように学習内容の習得や調べ学習を支援する二次元コードを多数用意し、個別最適な学びの支援を行っている。よって生徒が自ら学習内容を深める際の足がかりとなるコンテンツが充実している。

日本文教出版は、個別最適な学びを実現するために、ICT機器を活用した学習を取り入れ、各自の学習進度やペースに合わせた様々な教材を用意している。170ページのように、二次元コードは153箇所と豊富に配置されており、それを読み取ってイントロダクションムービーや確認小テスト、ポートフォリオ等を活用できる。また、協働的な学びを行うために、章・節の終末に185ページの「議論してみよう」などの学習活動を取り入れている。さらに「学び合い」マークを付している箇所では、生徒どうしの話し合いなど対話的な活動が効果的に取り入れられるようにしている。これら各者の教科書については、市民の方から意見をいただき、それらに目を通したうえで、調査研究した結果、高い評価を得たのは、東京書籍と帝国書院だった。

岐阜市の地理の指導では、「資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成すること」と「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」が求められている。これらは、着眼点の1－（1）、3－（1）に当たる。そこで、この2者についてどちらが岐阜市の生徒に最もふさわしいかを、この2つの着眼点でさらなる精査を行った。

はじめに、1－（1）「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成すること」について説明する。地理的分野においては、地理的な見方・考え方を働かせ、地域的特色を多面的・多角的に考察することで、各地域の理解を深めることを重視している。

帝国書院は、巻頭8ページで地理的な見方・考え方を5つ明記し、章末で働かせる見方・考え方をマークとともに具体的に示している。43ページの「グラフのつくり方」のように、21箇所の「技能をみがく」は資料活用 of 技能の習得を目指す内容と

なっており、分かりやすくなっている。さらに、180～181ページのような、章・節の終末に「学習を振り返ろう」を位置付け、地理的な見方・考え方を働かせることで、章・節の問いの解決に向けて考察できるようにしている。

東京書籍は、6ページの「地理を学ぶ5つのミカタ」のコーナーで地理的な見方・考え方を明記し、単元の導入や各単位時間、終末など、全編を通して働かせる見方・考え方をマークとともに具体的に示している。また、習得すべき知識や概念を適切に盛り込んでいる。また、56ページの「グラフの読み取り方と作り方」のように、31箇所ある「スキル・アップ」は資料活用の技能の習得を目指す内容となっており、数が豊富で大変分かりやすくなっている。さらに、194～195ページのような、編・章・節の終末に「まとめの活動」を位置付け、地理的な見方・考え方を働かせながら、単元ごとに異なる思考ツールによる学習のまとめを行う場を設定しており、知識の定着や思考の整理を十分に行いやすい構成になっている。

以上のように、両者とも「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成すること」において、地理的な見方・考え方を働かせるために工夫がなされているが、帝国書院は、地理的な見方・考え方を働かせるマークがあるのは、章末のみなものに対し、東京書籍は、各単元・各単位時間など全編を通して多く設定されている。こうした点で、「東京書籍」が優れているといえる。

次に、3－(1)「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」について説明する。

帝国書院は、地球的・地域的課題の解決に向けて構想する「アクティブ地理」を4箇所設けており、214ページには「持続可能な観光について考えよう」など、日頃から社会の形成に参画する態度を育成できるようにしている。また、232ページには「未来に向けて」を設け、産業と環境が調和した地域づくりについて記載するなど、未来の社会をつくる取り組みを紹介している。さらに、284ページからの第4部第1章「地域のあり方」では、地域に見られる課題の分析と、その解決に向けた構想の手順を丁寧に説明しており、地域に見られる課題の解決策を提案する活動が位置付いている。

一方、東京書籍では、33箇所と豊富な「インタビューコラム」を設けている。227ページには『『結』で守る景観』で合掌造りの家を守る人のインタビューが載っているなど、実際に社会に参画している人々の生き生きとした姿から、自らの生き方やキャリア形成について十分に考えられるようにしている。また、コラム「未来にアクセス」が新設され、231ページには、「富士山は美しい山？」と持続可能な観光業の取り組みなど、課題解決の事例を21のテーマで豊富に取り上げている。さらに、第3編第4章「持続可能な地域の在り方」では、具体的な調査活動や提案活動を取り上げている。279ページには、「地域の未来像を広く発信しよう」と社会参画に向けた主体的な態度を養えるようにしている。

以上のように、両者とも、「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」のために多様な工夫がなされている。地理的分野では、対象地域の人々の努力や営みを

捉えることが地域的特色の多面的・多角的な考察を促し、地域のより深い理解につながる。生徒が主体的に自分自身と岐阜市の在り方についての考えを深め、社会参画する力を高めるにあたって、そうした地域的特色の理解は非常に重要であると考え。その点で、「インタビューコラム」の記載の数が豊富な「東京書籍」が優れているといえる。

以上のような総合的な調査結果に基づき、中学地理においては、東京書籍が、岐阜市の生徒に最もふさわしい教科書であると判断した。

【教育長】

種目「地理」の調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。岐阜市に関する地理的な素材について、紹介はあるか。

【主任研究員】

岐阜県や岐阜市に関連している事例が記載されているかは、調査の対象とした。岐阜市についてという質問であったが、岐阜市に直接関連する事例の記載は無かった。ただし、東京書籍では、木曽三川と濃尾平野、白川郷の合掌造りで和田さんの話が取り上げられている。

【採択検討委員】

2つの者に絞っての説明、とても分かりやすく、どちらの者も見方・考え方を重視していることが示された。しかし、最近、社会科の授業を見たとき、内容量が増えてきていることが気になる。その中で、子どもたちが集めた情報を整理しきれていない。情報の整理、分析は重要であり、現在は、ロイロノート等を活用し、各自が自らの思考を整理することに取り組んでいる。そういう観点から、2者を比較した中で、情報を整理、分析したり、思考ツールを活用したりしながら思考力を高めることの指導の紹介があるなど、調査により分かったことがあれば教えてほしい。

【主任研究員】

地理については、平成7年度改訂からおおよそ20%程度、内容が増加している。これだけの情報量を限られた時間の中で、いかに扱っていくかは社会科の教員としては重要な問題。そこで、東京書籍の最後のまとめのページであるが、自分が収集した情報について、整理してまとめている。コンパクトな形でどうやって表現するかを示している。これは、ぎふMIRAI'sの探究的な学習につながるが、こういったページを使って情報を整理する力を培うことが重要。その点で、東京書籍は単元のはじめのページで全体像を示し、探究的なステップとして、自らが分かったことを整理するようにしている。見方・考え方を踏まえてモデル図で示し、分かったことをまとめさせようとしている。違う単元においても同様の構成で、情報を整理し、自らの考えをまとめるようにしている。整理するための思考ツールは単元により多様に示しており、最終的には、各自が自由に選択してまとめることができるまでに思考力を高めていく工夫が見られる。この点において東京書籍が適切であると判断した。

【教育長】

それでは種目地理の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認

を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「社会」、種目「歴史」の調査研究を報告願う。

【歴史：主任研究員】

歴史の教科書について、9者が調査研究対象となり、そのうち見本本として8者から送付があったので、1ページにある着眼点に基づき調査研究し、資料を2ページから23ページにまとめた。最初に、各者の特色について説明する。

東京書籍は、一単位時間の学習の流れが教科書の見開きの紙面上に大変分かりやすく示されている。興味・関心を引く「導入」から学習を見通せる「学習課題」へ、丁寧でわかりやすい「本文」から学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化されることで、基礎的な知識・技能が確実に取得できるよう工夫されている。

教育出版は、一単位時間の学習の終末には、学習課題に対して事実的な知識を問う「確認！」や知識を相互に関連付けた概念的な知識を問う「表現！」という2段階の評価問題が設定されており、見開き2ページで知識・技能や思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。

帝国書院は、時代の特色がわかる「タイムトラベル」が設けられ、各時代の政治・経済・文化を描いたイラストでイメージを視覚的に捉え、その当時の人々の営みが大観できるものとなっている。また、それらのページにも歴史的な見方・考え方が位置づけられ、それを用いて対話的な学びができるよう工夫されている。

山川出版社は、世界の歴史を含めた歴史全体をつかむことを重視する内容が充実しており、各章の扉には、その章で学ぶ様々な歴史的な社会事象の写真が豊富に掲載されている。また、日本と世界の出来事を上下に分けて示す帯年表が位置付けられ、視覚的に流れをつかみやすいような工夫がなされている。

日本文教出版は、教科書の冒頭で歴史的な見方・考え方が示されている。また、章や一単位時間ではそれを働かせる必要がある問いが設定されているだけではなく、学習の足がかりとなる着目点や思考のプロセスが記されており、主体的に歴史的な見方・考え方を働かせて深い学びを達成できるように工夫されている。

自由社は、序章では、歴史のとらえ方として因果関係や時代背景、影響などを示し、章末では時代の特徴をとらえるコーナーを設けている。各章では、「時代の特徴を考えるページ」や「重要な用語を確認する復習問題のページ」が位置付けられている。また、「対話とまとめ図のページ」が位置づけられ、章を総括的に理解できるよう工夫されている。

育鵬社は、見開きの構成として、つかむ、調べる、まとめるという問題解決型の学習過程の流れを明確にし、学習の見通しをもちやすい構成となっている。まとめる段階では、基礎的・基本的な知識の定着を図る「確認」と、学習内容について説明する「探究」のコーナーを設け、資質・能力を身に付けることができるような工夫がなされている。

学び舎は、見本本が送付されていないため、ホームページ等の情報をもとに調査をした。「学び舎」は、学習内容については世界史が重視され、世界と日本とのつながりを意識しながら歴史を学習できるよう工夫されていたり、歴史における諸課題を現代社会における諸課題と結びつけ、よりよい社会を構想する活動が位置付けられたりしており、公民的分野の学習や高等学校における歴史総合への接続が図られていると推察される。

令和書籍は、単元の始めにその時代の年表とともに「政治」「外交」「文化」「産業」の視点が示され、単元で学ぶ内容の学習課題が設定されている。そのため、まとめ・表現できる活動を位置付けた構成となっており、生徒にとって対話的な活動がイメージしやすくなっている。

これら各者の教科書については、市民の方からもご意見を頂戴しており、それらに目を通したうえで、調査研究した結果は、このようになった。調査の結果、高い評価を得たのは、「東京書籍」と「教育出版」であった。岐阜市の歴史の指導では、「歴史的な見方・考え方」とぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習」を重視している。これらは、先ほどの地理と同様に、着眼点の1－(1)、3－(1)に当たるので、この2点について、「東京書籍」と「教育出版」のどちらが岐阜市の生徒に最もふさわしいかを精査した。

はじめに、1－(1)「資質・能力の育成」について説明する。

教育出版は9ページで、歴史的な見方・考え方を3つに分類し、それぞれ1つの例を示しながらシンプルにまとめている。また、34ページでは、キャラクターが見方・考え方のアドバイスをする形で、生徒の学びを支援している。

一方、東京書籍は、10ページから15ページにわたって、歴史的な見方・考え方を5つに分類して取り扱っている。また、それに加え、内容に応じた課題や発展的な課題を設定することで、歴史的な見方・考え方の働かせ方や、探究的な学習に興味を持たせるなど、歴史学習への導入が図られている。また、36ページでは、人々の生活の変化を理解するために、内容に応じて有効な歴史的な見方・考え方が分かりやすくマークで示す工夫がなされている。

以上のように、両者とも、「歴史的な見方・考え方」を働かせるための工夫がなされているが、東京書籍は、そのための手立てが充実しており、小学校から発展した中学校の歴史に初めて触れる生徒や、若手の教員が学びやすい内容となっている。こうした点で、「東京書籍」が優れている。

次に、3－(1)「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」について説明する。

教育出版では、52、53ページのように単元で持った興味をさらに引き出し、学びを深める題材が各所に設定されている。こうした発展的な学習を取り扱うことで、探究的な学習の充実が図られている。また、58ページの単元のまとめでは、その単元に学んだ内容を分かりやすく整理するページが設けられている。

一方、東京書籍は、58、59ページに同じ「神話」をテーマにした題材が設定さ

れているが、取り扱われている資料が豊富で具体的であるとともに、世界の民俗学との関連まで示されており、探究的な学習がより一層深められる工夫がなされている。また、62, 63ページの単元のまとめでは、次の時代を予期させる資料が掲載されており、学びの連続性が誘発される構成となっている。また、106ページでは、織田信長の「楽市令」を「最初の楽市令は加納（岐阜市）で出された」と紹介しており、生徒が岐阜市の歴史に関心と愛着を深める学びが展開できる。

以上のように、両者とも、「ぎふMIRAI 'sにつなげる探究的な学習の充実」につなげる多様な工夫がなされているが、東京書籍の方が、内容はもとより、単元の構成から探究的な学習を促すよう工夫されているため、歴史の人・もの・ことを通して、「生きる」を学び、よりよい岐阜の未来を探究することができる。

以上のような総合的な調査結果に基づき、中学歴史においては、提示した資料のように東京書籍が、岐阜市の生徒に最もふさわしい教科書であると判断した。

【教育長】

種目「歴史」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

歴史の教科書については、市民の意見がたくさんあったとのこと。おそらく今日の結論が出た後、最終的に定例教育委員会のために、具体的に、市民の意見で参考になった意見はなかったのか、取り入れなかったのかという質問はある。意見を書かれた市民の方は、決定後、市のホームページを見ながら、自分の意見が通ったのか確認される。よって、市民の意見を受けたことを、どう考えたのか説明いただきたい。

【主任研究員】

事務局を通して、教科書展示会で寄せられた意見は、すべて全委員が拝見した。意見の内容については、それぞれ個人の見解であるために、ここでつまびらかにすることは避けるが、ほとんどが歴史に関する意見であり、天皇制に関わって、神話、皇位継承図、敬語について。朝鮮との関わりについては、関東大震災、韓国併合、創氏改名、強制連行、徴用工、慰安婦。近代の戦争に関わって、太平洋戦争、大東亜戦争、南京大虐殺、沖縄戦。人権については、家族、同性婚、LGBT、家族での介護等の内容について、それぞれ多様な両極端な意見が寄せられた。また、縦書き・重さ・色等の体裁についてもご意見をいただいた。それぞれ多様な意見であった。

そのため、調査研究に当たっては、こうした全ての意見に目を通したうえで、意見書のみを重視して調査研究に偏ることがないように、着眼点を基に総合的に岐阜市の子どもたちにとって一番ふさわしい教科書は何であるかということ判断した。

【採択検討委員】

ぎふMIRAI 'sとのつながりで地理については、「人・もの・こと」の特に人からのインタビューが、東京書籍はたくさん載っていて、主体的に学べるようにしたいということだったが、東京書籍と教育出版に載っている、「人・もの・こと」に関わって、東京書籍は◎で、教育出版は○だが、その辺の差が分からなかったのもので、具体的に教えていただきたい。

【主任研究員】

教育出版の教科書も大変内容が適切で優れている。どちらも優れているが、岐阜市の子どもたちにとってということ考えてときに、一般的に古代を振り返る探究的なまとめのページで、多くの会社だと天皇の系統図を載せて、神話とのつながりで説明されている。但し、東京書籍は、建築物であったり、儀礼的な活動について、同じ神社であっても、出雲の神社だったり伊勢の神社、いわゆる表の神と裏の神、それから民俗学に基づく世界の文化的な広がりについて、まさに学術的に見て一般的にこのことは広く歴史的・普遍的な事実やものの見方として取り入れられているものが多様に載せられている。こうしたことから、東京書籍は、岐阜市が大事にしている「人・もの・こと」から総合的に自分の生き方を探究して、岐阜市の未来をつくることができるのではないかという形で考えて、東京書籍がよりふさわしいと判断した。

【採択検討委員】

校内事情で、昨年度若手の社会科教員がお休みをとり、免外の教員が社会科を教えることになった。今年度も常勤講師が2名入っていて、若者が社会科を教えることになっているが、自分が学んでいたような時代の社会科と全く違い、時間内に自分たちがどんなことを学んでいくのか、ゴールはどこにあって、どういう指導をしていけばよいのかが教科書の中だけでも非常によく分かる。社会科の教員免許を持っていないベテランの教員も、教科書がいい、教科書を読み込んでいくと自分が何をすべきかが分かるし、どんどん自分が社会を好きになっていく気がする、そこまで言っていた。それで、今日、いろんな発行者を比べたときに、東京書籍が見やすいし、魅力的だし、学びやすいなということで、それは教員がそうであるなら子どもたちもそうだろうなと実感した。個人的に、右端にある年表的なものも、教科書を開いたときに色がどんどん移っていくことがわかり、自分で次へ進めていきたいなという思いにさせられる。学びを広げていきたいなと思わせるつくりになっていて、各発行者もいろんな配慮をしていることがよくわかった。

【採択検討委員】

社会科の授業を見ると、資料から背景を考えて、交流して、そこからさらに今日、分かったことみたいな授業が多い。これだけ、端末がある割には、手元にあるのは限られた資料で、それで探究と言えるのかと思う。地理の時も思ったが、東京書籍は、学び方について、現場の先生方には、こういうのを使っていくと、教科書を教えるのではなく教科書でいろんなことを培うというヒントがちりばめている。6ページの章の構成と学び方について、ここに、課題と探究課題と分けてあって、ここに書いてある課題は学習課題、そのページで学習する課題、一方で探究課題は章を貫く問いだがある。総合的な学習の探究課題はもう少し幅広い。何となく今まで社会科で見た単元を貫く課題が探究課題で、一時間でやっているのが課題で、それだけのことかと受け取ってしまうが、次の学習指導要領の中核は探究だと言われるなかで、社会科としての視野を広げた探究というのをこれからやっていくという手がかりというか、教科書のこれをやっていくとさらに発展して総合につながっていくという色は出すのか。

【主任研究員】

社会科の課題について、通常課題というのは、いわゆる答えがあるものになる。歴史学的に見て、例えば、国風文化は鎖国をした結果、我が国独自の文化が成り立っていった、かな文字であったり、建築の日本の文化のもとであったり、これは答えが歴史学的のなかで一般的に認められているので、課題に対して歴史学的に見てふさわしい回答があって、こういったキーワードを使って、そのことについてきちんと自分が整理して基本的な知識の定着のように形成される。いわゆる答えがないものについて、例えば、東アジアの交流と琉球文化これは、日本国は大和民族だけじゃく、アイヌであったり、沖縄の方であったり、日本も多民族国家だが、ここだとそういった子どもたちが調べたい課題が多様に設定できるようになっていて、琉球とアジアのかかわり、琉球と日本のかかわり、琉球を支配しようとした江戸幕府とのかかわり、このページでいうと1つの事象を取り上げて様々な課題を子どもたちが設定して、追究できるようになっている。おそらく、こういった学習のさせ方が、知識・技能を教えて答えがあるときと、答えがなく自分なりに問いをつくって追究し、自分なりの出口がそれぞれの子どもにある、そういった形が社会科でいうと探究的な学びとして構成されていくと思う。もう1つ、これから説明をする公民。公民は、私たちが、今、生きている社会を考えるので、消費税を上げるか下げるか、日米安全保障条約をどうするか、電力の問題をどうするか、まさに、こういったことは回答がないので、先ほどのページのように、多様な課題ということではなく、1つの課題であっても考え方が異なるというのがある。こういったことこそ、自分なりに探究をしていくぎふMIRAI'sの学び方が生かされる学習内容に社会科も大きく転換していく途上にあると思っている。

【採択検討委員】

授業をやっていると学生は、探究課題は解決しないね、ゴールがないねという。これを見ると探究課題の解決って書いてあって、そうなるとうとうこうだったねという行き当たる学習になると、またもとの世界に戻ってしまう気がして、今まさに言われたような、単元の終末、それ以降に子どもたちが課題意識を継続しながら探究し続けていって、それが総合につながっていくとか、高等学校の探究につながっていくとか、そういう入口にある教科だと思っている、非常に期待をしている。

【教育長】

検定に合格した会社だけでも9者あるので、そのなかから1者、岐阜市の子どもたちに一番ふさわしい教科書ということで、ていねいに調査研究している。

それでは、採決をする。

種目「歴史」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「社会」、種目「公民」の調査研究を報告願う。

【公民：主任研究員】

公民の教科書について、見本本として6者から送付があったので、1ページにある

着眼点に基づき調査研究し、資料を2ページ～16ページにまとめた。最初に、各者の特色について説明する。

東京書籍は、各章の導入において、有権者や経営者、現代社会の特長やSDGsなど、様々な立場や内容について考える場を設けることで、単元の課題の設定を促している。87ページの「もっと知りたい」のコーナーのように、今日的課題が多く取り上げられている。ディベートなどグループで議論する材料も豊富であり、対話的な学習を進めることができる。また、86ページのように、デジタル資料として二次元コードが毎時間のページに掲載してあるとともに、従来の信用あるメディアとして新聞記事を掲載するなど、よく考えられたバランスのよい内容や資料の構成となっている。

教育出版は、導入ページ、本時ページ、学習を振り返るページという流れの中に、今日的な課題をテーマにした特設ページがある。視点を変えて学習内容を捉え直すことに効果的である。124から125ページの特設ページは、具体的事例を示した上で、グループで話し合いに移る二段構成となっており、自分事として社会参画をしていく力を培うことができる。ルール作りの学習では自分たちの町の様子が想像できるような内容になっている。終章では「私の提案」という活動があり、全体的に高校やそれ以後の学びにつないでいくことを意図した構成となっている。

帝国書院は、章や単元の導入では、30～31ページのように実社会に興味をもたせる大きなイラストが使われており、自分たちが町の様子を思い浮かべながら、単元の課題を設定することができる。本時ページの導入資料も身近な商品や話題となった出来事など、実生活につながる題材を扱っており、興味・関心をもたせることで自分事として学習に取り組むような構成となっている。また、SDGsに関わるコラムが豊富で写真資料も多く、巻末資料も「持続的な社会の実現」が取り上げられている。

日本文教出版は、「導入」「本文」「まとめ・ふり返し」を各章と各単位時間に位置付け、問いの構造を可視化し、主体的・対話的で深い学びを行うことで、生徒が主役の楽しい学びを実現しようと工夫している。80～81ページの「章のまとめをしよう」では、「個人の尊重と日本国憲法」について、思考ツールを用いて表現し、章で身に着けた人権や法・制度などの知識を整理して表現し、新たな問いを生み出す構造になっている。

自由社は、「ここがポイント」や「ミニ知識」を各単位時間に位置付けることで、生徒が基礎的・基本的な知識を習得できるように工夫している。また、「やってみよう」の欄で修得した知識を活用して表現できるようになっている。137ページでは、「ミニ知識」の欄で経済的分野における各産業の役割や特色を示し、さらに「やってみよう」で自分の住んでいるまちに当てはめて、イメージしやすくしている。

育鵬社は、「課題をつかむ」「課題について調べる」「課題についてまとめる・表現する」という問題解決型の学習を、各章を通して行えるようになっていたり、各単位時間に現代社会の見方・考え方を示したりする工夫がなされている。114、115ページの「政治のこれから」では、まちづくりに関するアイデアをカードに書き出し整理するKJ法や重要度によるランキングを考える学習活動を示すことで、課題につい

てまとめられるようにしてある。

これら各者の教科書については、市民の方からもご意見を頂戴しており、それらに目を通したうえで、調査の結果、高い評価を得たのは、東京書籍と帝国書院である。

岐阜市の公民の指導では、「現代社会の見方・考え方」と「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」を重視している。これらは、歴史と同様に、着眼点の1－(1)、3－(1)に当たるので、この2点について、東京書籍と帝国書院のどちらが岐阜市の生徒に最もふさわしいかを精査した。はじめに、1－(1)「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成すること」について説明する。

帝国書院は、「技能を磨く」のコーナーでは、学習に必要な技能を習得するコラムを掲載している。85ページでは、引用で主張に説得力をもたせる技能を身に付けられるようになっている。「思考力・判断力・表現力」の習得については、「アクティブ公民」で現代における課題について取り上げ、自分の考えを持てるような構成となっている。159ページには「累進課税の強化に賛成か、反対か」などといったディベートができる材料があり、思考力・判断力・表現力を育むための手段として活用することができる。「学びに向かう力・人間性等の涵養」についても、導入資料が身近な生活を想像しやすいものとなっており、興味・関心を高めることに効果的である。116～117ページは、日常生活で利用する店をイラストで示し、自分で課題を設定できるような工夫されており、主体的な学びへの一助になっている。

一方、東京書籍は、資質・能力の育成に向けて働かせる現代社会の見方・考え方が明確に示されている。「虫眼鏡」のマークには、単位時間ごとの活動コーナーにおける見方・考え方の視点が載っている。例えば、67ページの防犯カメラの設置とプライバシーの権利を個人の尊重という見方で考えられるように構成されている。さらに、「みんなでチャレンジ」で話し合いの流れも提示するなど、グループで議論する材料になる内容も豊富で、主体的・対話的で深い学びを促している。また、「もっと知りたい」でも今日的な課題が多く取り上げられており、様々な視点から話し合い活動が展開できる構成となっている。第2章で学ぶ「個人の尊重と日本国憲法」の章末に当たる76ページでは、共生社会と多様性について記されており、グループで議論するには十分な内容が示されている。このように豊富な資料が、わかりやすい内容で構成され、資質・能力をバランスよく育成することに十分に役立っている。

以上のように、両者とも大きな工夫がなされているが、帝国書院は、現代社会に関心をもち主体的に学べるような構成に対し、東京書籍は、主体的に現代社会の見方・考え方を働かせる構成になっているだけでなく、活用できる機会を多く設定してあるため、公民の主題である生命の尊厳や人権、民主制等についてより深く理解することができ、一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合うことができる。こうした点で、東京書籍が優れている。

次に、3－(1)「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習」について説明する。

帝国書院は、導入ページの「学習の前に」は身近な生活をイメージできる大きなイラストが掲載されている。74から75ページは暮らしやすい社会をつくる視点で、

社会的事象について考えられるような構成である。地方自治の地域に参画する活動を取り上げた「アクティブ公民」では、自分が住む町の予算を考える活動が仕組まれている。108から109ページでは、為政者の立場に立ってよりよい町づくりを考える内容で、多面的・多角的な視点で対話的な学習に取り組むことができる。全体的に導入段階で興味・関心を引き付け、自分事として学習に取り組めるような構成となっている。

一方、東京書籍では、「18歳へのステップ」は社会参画のイメージを膨らませる方法としてたいへん効果的である。90～91ページの衆議院議員選挙の流れ扱った特設コーナーでは、解散・公示から選挙活動、投票までの流れを、豊富な資料で示している。そのため選挙期間中の岐阜市の町の様子が想像しやすくなっている。18歳に焦点を当てた特設コーナーは自分事として社会参画する力を育てるうえでたいへん効果的である。また、120から121ページの「みんなでチャレンジ」は、2ページを使って地域の政治参加について協働学習の進め方が示されている。自分たちの町の課題を探し、自分たちにできることを考え提案する活動は、岐阜市に置き換えて考えることが十分可能です。

以上のように、両者とも、「ぎふMIRAI's」につながる探究的な学習」につながる多様な工夫がなされているが、帝国書院は現代社会に関する興味関心を喚起するのに対して、東京書籍は、社会参画の視点で探究的な学びを引き出す構成になっている。そのため、「東京書籍」の方が、国や県、岐阜市の在り方について考えを深め、より社会参画する力を養うため、シビックプライドの醸成を図ることができる。

以上のような総合的な調査結果に基づき、中学公民においては、東京書籍が、岐阜市の生徒に最もふさわしい教科書であると判断した。

【教育長】

種目「公民」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

昨日、都知事選があった。今回、選挙の掲示板の問題など、今までになかった混沌とした状況が生じている。これまでの常識を大きく覆すことでしか、自分たちで問題提起ができないともとれる。あるいは、今まで決めてやってきたことを、ほんとうに見直して自分たちで考えてスクラップ&ビルドしていかないといけない時期にきている。すごく難しい時代に生きていく子どもたちにとって、この公民とか高等学校の公共とかは、すごく重要な教科だと思う。そう見ると、帝国書院と東京書籍が良いということだが、帝国書院の最後の第5部で課題探究活動に多くの時間を割いていて、最後に高等学校の公共にふれているところが、特に良いと思った。東京書籍は、SDGsを実現するためにということを発表するトピック的な扱いの内容をおいて、ここから君たちは何をするのかと考えさせている。このあたり、中学校3年生の終わり方として、公民の出口として議論になったか。

【主任研究員】

帝国書院は、最後のページで、高等学校の準備ということで、高等学校で扱う公共や、歴史総合、地理総合等を紹介していて、とても素晴らしく工夫されたページだと考えている。ただ、東京書籍は、持続可能な学習の進め方を示している。高校とのつながりは東京書籍にはないが、帝国書院は最後の学習のまとめが細かい形でまとめている。ただ、東京書籍の方は、これまで学んできたことを生かしながら、様々な方法でまとめられるようにしてある。もっと言えばその前の段階で、沖縄をめぐる問題やパレスチナの問題等の内容がたくさん掲載されているということで東京書籍と判断した。結論としては、高校とのつながりという点では帝国書院の方が素晴らしいが、全体の公民の最後のまとめという段階では、東京書籍の方がまとめ方、まとめる内容の具体的で発展的な課題の提示の仕方を含めて、子どもたちにとっては、よりダイナミックな学習ができると判断した。

【採択検討委員】

岐阜市の子たちが行う、ぎふMIRAI'sのベクトルと、社会科を核とした探究的な学びとは、カリキュラム上はつながっていると思われる。トピックがいろいろ出ているが、総合的な学習と密接に絡んでいるように思う。その辺りのカリキュラム上のつながりは議論したか。

【主任研究員】

社会科の学習そのものは、学習指導要領で扱う内容と扱い方が決まっているので、それに即していく。総合的な学習で、岐阜市は、ぎふMIRAI'sの探究的な学びに取り組んでおり、岐阜の在り方や岐阜市の人・もの・こと、自分の生き方を考えていくといったふるさと岐阜に誇りを持つことを重視している。総合的な学習では、社会科で学んだ内容を取り入れて探究学習をしている。その中でも、平和学習やSDGs、長良川鵜飼などの地域のことを素材として、教科横断的に社会科で取り組んでいくことは、十分可能である。

【採択検討委員】

社会科の資料集をよく使われると思うが、教科書にこれだけ資料が載っていて、それでは足りないということなのか。教科書によって書き方は違うが、学習課題について、授業をやっていくだけでは、知識の定着のみで終わる気がする。授業のはじめに示す課題としては、こういうことを調べて今日はこの学びをしようとか、今日はこの資料から読み取ろうということが大切だと思うが、全部、一問一答になってはいないか。課題というより問題と、それに対する答えという感じがする。課題とは問題を解決するための行動を示すべきだと思う。授業をやるにあたって、ここにある学習課題を示すだけでよいのか。

【主任研究員】

社会科の教科書はこれほど多様な資料が掲載されているが、資料集や自ら資料を開発して示している。それぞれの社会科の教師が、子どもの実態や岐阜市の教育に応じて最もふさわしい内容や方法で提示している。但し、保護者の過重な負担は公教育の大きな問題になっているので、まずは無償需給されている教科書をしっかり活用する

ことを、岐阜市の社会科指導では大切にしていきたい。

課題が知識・技能の習得に限定されていないか、もっと多様な学びができるような構成になっていないかという質問に答える。例えば、日本国憲法で平和主義はどんな意味があるのかということ、戦争の問題など様々な言葉を使って説明しようということだが、知識を教えるのではなく、それぞれの言葉を使って、社会的事象がどういったつながりで、どのように社会に構成されていくかをまとめることに、社会科の本質がある。決して、このキーワードを使ってまとめようということではなく、思考・判断が入ったうえでないと文章が構成できない。もちろん主体的に学習に取り組む態度も含めて学習が成立しているので、大丈夫である。

【採択検討委員】

東京書籍を見たときに、37ページに日本国憲法の単元が始まるが、帝国書院は29ページから始まったときに、単元の導入を大事にしていると思う。子どもたちが何を学んでいくのかということや、自己調整力が大事にされている。自分の学びを調整していくのに、単元の導入はすごく大事である。同じページを比較したときに、29ページは国会議事堂の写真だけ載っている。人で学ぶということを東京書籍は、大変よく感じられる。次のページを見開いたときに、帝国書院は、漠然とした活動に感じられるが、東京書籍は具体的に学ぶよう進めている。このことについて一人一人の違いが分かって対話的な学びが促される。探究課題、単元を貫く課題と言っていたが、私が若い頃実践しているときは単元を貫く課題というのを他県の人に言ったときに、それはどういうことか、岐阜県独自の言葉か、と聞き返された。しかし、今は一般的になっている。東京書籍は社会にどうかかわっていくか、一方、帝国書院はどう考えるべきかという、考えるレベルがちがう。やはり身近な生活と関わらせて自分はどうか考え、どう行動していくかということ、第1から3節で追究のステップ、見通し、ゴールといった順で解決の方法を明確にもたせるところが大変分かりやすい。特に社会科、生活科では、1つの単元で2つの問題解決のサイクルがある。1つは大きい出口のサイクル、もう1つは一時間毎の問題解決のサイクル、それを明確に示しているので、分かりやすいと思う。社会科は、算数・数学と違って、時代によって不易と流行が変化している。算数・数学は本質が変わらないかもしれないが、社会科は時代が変わると内容が変化していく。私が学んだときはソ連だったが、今はない。ウクライナの侵攻とか竹島・尖閣諸島の捉えもそうだが、よりよい公民として生きていく上で、今はデジタル社会で生きていくというときに、デジタルリテラシーは大変重要だと思う。例えばディープフェイク、フィルターバブル、エコチェンバーといったことを学んでいく上で記載されているのか、これは社会科だけでなく全ての教科でやっていくことだが、社会科のなかで記載されているか。

【主任研究員】

東京書籍の冒頭のページ。現代社会の諸課題ということで、文化、消費生活、さまざま挙げられているが、そのなかでも情報社会の基本的な流れがまとめられている。ここでは情報リテラシーであるが、岐阜市では、デジタルシティズンシップ教育とい

うところで包括的に学ばせている。中身としては基本的なところで情報モラルに関すること、ネットに個人名や写真をさらさないということが掲載されている。今、委員がおっしゃった、フィルターバブル、自分の知りたい情報しかインターネットから返ってこない、エコチェンバー、自分の発した情報が賛成派の意見ばかりが増幅されていくという、今のデジタル社会の問題点については、このページのなかでは記載されていない。消費社会と社会科・家庭科はリンクしている。情報社会は技術の授業とリンクしている。感染症等のことを例に挙げると、社会対策としての感染症は社会科、感染症の健康被害の身の守り方は保健体育科と言える。それぞれの教科書の学習内容を教科等横断的に学んでいくことで、1つの教科書でたくさん学ぶのではなく、学習を進めていくことが求められている。改めて、各学校の指導者は、他の教科との関わりまで視野を広げて、自校の学校教育や教科教育を展開していく必要があると思った。

【教育長】

それでは、採決をする。

種目「公民」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「社会」、種目「地図」の調査研究を報告願う。

【地図：主任研究員】

見本本として2者から送付があったので、1ページにある着眼点に基づき調査研究した。最初に、各者の特色について説明する。

東京書籍は、主体的で深い学びを実現するために、キャラクターが登場し、地図の活用法や学習を深める「ヒントとなる問い」を提示している。1枚の地図を見て取り組む問い、2枚以上の地図を見て取り組む問い、図をもとに調べたり考えたりする問いが全153問あり、主体的に地図を活用する力が養われるよう工夫がされている。地理的分野を始め歴史的分野や公民的分野の学習で活用できる主題図や資料が随所に掲載されており、社会的事象を多面的・多角的に考察できるよう工夫がされている。一般図では、歴史に関連する場所を示す「主な歴史の舞台」が豊富に記載されている。また、個別最適な学びを支えるために、デジタル地球儀やデジタル統計資料など、二次元コードから多様なコンテンツにアクセスできるよう工夫がなされている。

帝国書院は、文化や自然、産業等に関する資料が多数掲載されており、その資料総数は749と大変多くなっている。写真資料をはじめ、統計資料や主題図、鳥瞰図、絵図など、豊富でわかりやすい多様な資料が掲載されている。北海道地方のページには、日本とロシアの国境の変遷が掲載され、北方領土問題について正しい認識をもたせる工夫がなされている。また、生徒が主体的・対話的に取り組みながら、地理的な見方・考え方を働かせられる問い「地図で発見!」を全156問設けられている。歴史で活用できる鳥瞰図や地図、年表等も掲載されていて、歴史的分野での活用ができるよう工夫がなされている。また、歴史や公民での活用に対応している資料にはアイコンが付されている。

また、岐阜市の地図の指導では、資料の豊富さと分かりやすさを大切にしている。従って、これまでの社会科の他の種目と同様に、着眼点の1－(1)、3－(1)の2点について、東京書籍と帝国書院のどちらが岐阜市の生徒に最もふさわしいか精査した。はじめに、1－(1)「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成すること」について説明する。

東京書籍は、掲載資料が505点であり、95ページの中部地方を広く眺める地図では、落ち着いた色合いで構成し、見やすい資料となっている。また、20ページのアジア州の人口密度の資料は、単色の濃淡により人口が集中する様子をシンプルで見やすく表している。

一方、帝国書院は、掲載資料が749点と多いうえに、119ページの中部地方を広く眺める地図では、薄い色から濃い色を使い分け、コントラストをつけることで、地形の特徴がよりよく分かるような工夫をしている。また、26ページのアジア州の人口密度の資料は、複数の色を組み合わせることで分布を把握しやすくするだけでなく、仲間に説明する際に「黄色の部分」という表現がしやすくなり、対話的で深い学びにつながる工夫がなされているといえる。

以上のように、両者とも「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成すること」において、大きな工夫がなされているが、帝国書院は、それぞれの資料を子どもたちがどのように使用し、学びを深めるかをよく考えた豊富な資料が用意されている。こうした点で、帝国書院が優れているといえる。

次に、3－(1)「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」について説明する。

東京書籍では、131、132ページの「日本の自然環境（地形）」で、山地に特化した発問が位置付けられ、1つの課題にじっくり取り組むことができる。また、全体を通して、岐阜市に特化した資料はなく、97ページの「東海地方」の地図では、岐阜市の特徴を「ちょうちん」で紹介している。

一方、帝国書院は、155、156ページの「日本の地形」で、山地・河川・平野の広い視野で探究的な学びを進めることができる、主題学習のページが位置付けられている。125ページにおいては、岐阜県の輪中の資料を地図や断面図を用いてわかりやすく示し、SDGsの取り組みとして紹介している。121ページの「中部地方南部」の地図では、岐阜市の特徴を「ちょうちん」「和傘」「えだめ」「板垣退助遭難事件」と多分野において紹介している。

以上のように、両者とも、学びの充実につながる工夫がなされているが、「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習の充実」につながる多様な工夫がよりなされ、子どもたちが岐阜市に愛着を持ち、主体的に自分自身と岐阜市の在り方に考えを深め、社会参画する力を養うことにつながると考えられるのは、帝国書院であるといえる。こうした点で、帝国書院が優れている。

以上のように総合的な調査結果に基づき、中学地図においては、帝国書院が、岐阜市の生徒に最もふさわしい教科書であると判断した。

【教育長】

種目「地図」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

地理の教科書は東京書籍となった。地理の授業において地図帳は、教科書の内容に照らし合わせて使用することが多い。そのため、異なる発行者のものを使用した方が見方や考え方は多面的となって良い。よって、帝国書院の方が良いと思った。

【主任研究員】

現在は、令和2年度の採択により、東京書籍の地図を使用している。今回の採択において、地理の教科書を東京書籍とした。同様に地図を東京書籍にすると似たような構成となっており使い勝手は良いという意見はあった。しかし、それぞれの種目において、岐阜市の子どもたちにとって最も適している教科書はどれかと考えたときに、総合的に判断すると、地図については東京書籍のほうが良いという結論となった。

【採択検討委員】

前回の採択で東京書籍だったものを帝国書院に変えるということになると、帝国書院は前回と比較して良くなったところがあるのか、または、調査研究員が前回と違うので見どころが違ってくるのかどうか。学習指導要領は変わっていないので、着眼点が大きく変わったとは思えない。しかし、ある着眼点においては、帝国書院のほうが圧倒的に良かったといった根拠を明確に示してほしい。

【主任研究員】

1点目、地図の1番の使命は、資料活用能力を高めること。そう考えたとき、地図帳では、多様な資料が豊富に掲載していることが重要。東京書籍の資料数は505点。帝国書院は749点。よって、資料活用能力を高めるためには、帝国書院のほうが適切であると判断した。また、ぎふMIRAI'sに関わる探究的な学びにおいては、子どもたちが掲載されている様々な資料を通して、岐阜市に愛着をもつことが重要。よって、岐阜市に関わる内容がより豊富に掲載されている帝国書院のほうが、より効果的に学習できると判断した。

【採択検討委員】

では、帝国書院の資料数が以前のものから増えたということか。

【主任研究員】

前回の採択の際も、帝国書院のほうが資料数は多かった。しかし、岐阜市の教育の方針である授業のOS転換及び探究的な学びを受けたうえで、調査研究を進めたとき、説明した2つの着眼点を重視し帝国書院が適切であると判断した。

【教育長】

採決をする。種目「地図」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「数学」、種目「数学」の調査研究を報告願う。

【数学：主任研究員】

調査の対象となった教科書は、東京書籍株式会社、大日本図書株式会社、学校図書株式会社、教育出版株式会社、株式会社新興出版社啓林館、数研出版株式会社、日本文教出版株式会社の7者であった。

私たちが各者の教科書を調査研究した結果について、調査項目の中で優れた内容にとらえた発行者名とその具体的な記載並びに理由について説明する。最初に調査項目1の着眼点（1）について、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養をバランスよく育成という着眼点において優れた内容となっているのは、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版の4者だった。

東京書籍では、巻頭に「大切にしたい数学の学び方」のページが掲載されており、本編では既習事項を利用して問題解決をしていくページが位置付けられているため、「問題をつかむ」、「見通しを立てる」、「問題を解決する」、「ふり返る」、「深める」といった5つのステップに沿い、深い学びに向かう力が少しずつついていくような構成になっている。また、それぞれの章末には「ふり返りレポート」のコーナーが位置付けられており、既習事項をふり返り、数学のよさに気付くことができるような工夫がされている。

大日本図書では、巻頭に「数学の世界へようこそ」のページが掲載されており、本編では、問題解決する過程として「問題を見い出そう」、「解決のしかたを探ろう」、「解決しよう」、「深めよう」の4つのステップが示されている。また、巻頭に「いくつか調べて予想する」、「同じように考える」など、数学的な見方・考え方が具体的な例とともに掲載されているため、新しい問題を発見したり、問題をよりよく解決したりするための手立てがわかりやすくまとめられている。

学校図書では、章で学習した内容を利用して問題解決をしていく数学的活動のページが位置付けられている。そこには、問題を見出し、解決していくまでの流れが具体的に示されている。式と計算では「文字式で考えよう」、関数では「グラフで表そう」など、系統性をふまえた数学的活動の過程となっている。さらに、新たな問題を見出せるような発問が適切に位置付けられている。また、問題を解決していく過程で生まれた、新たな疑問を「次の課題へ！」と位置付けることで、次の学習への動機付けを行うとともに、疑問をもち、進んで学んでいく流れを示すような構成になっている。

教育出版では、巻頭に「みんなで数学をはじめよう！」を掲載し、問題解決の過程を示している。本編では、それぞれの章で数学的活動のページが位置付けられ、「問題を見いだす」、「問題をつかむ」、「見通しを立てる」、「問題を解決する」、「ふり返る」、「深める」の6つのステップに沿って考えることで、問題解決の学び方が定着できるような構成になっている。また、学習のきっかけや次の学習につながる問いには「？」（疑問符）で、学習したことよさや数学の楽しさには「！」（感嘆符）で、数学を統合・発展する問いのつながりを「！？」（感嘆疑問符）で、といった3つのアイコンを用いて、数学のよさに気づかせるような発問が位置付けられている。さらに、数学のよさや面白さを記した読み物「数学の広場」が充実している。

調査項目1の着眼点(2)について、他教科等の学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性という着眼点において優れた内容となっているのは東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、日本文教出版の5者であった。

東京書籍における関数領域では、第1学年で比例、反比例の学習を行う。東京書籍では、比例定数にあたるAの値を通して表、式、グラフの関係性をまとめている。同じ視点で第2学年の1次関数についても適切にまとめられている。第3学年では、2次関数の特別な場合を扱っている。このように、比例と1次関数の関係を想起させたり、高校で学習する2次関数のグラフの学習に発展させたりしている。また、巻末の「数学の目でふり返ろう」では、代数、関数、図形領域で小学校から中学校3年生までの学習を数学的な見方・考え方で貫き、領域における学習のつながりがより明確にできるように示されている。

大日本図書では、「思い出そう」において、既習内容と関連する学習内容を想起できる。例えば、第2学年の「変化の割合」では、Qの問題で反比例の変化の割合を調べるようにするなど学習の系統性を意識できる問いを掲載している。また、活用・探究のページにおいては、2次関数の一般的な問題に触れるなど発展的な問題を扱っている。

学校図書では、単元に入る前に前の学年で学習した重点を確認する「ふりかえり」のページが充実しており、他学年との関連を想起できるような構成になっている。特に第1学年の関数領域の導入では、直方体の水槽に一定の割合で水を入れる比例の問題だけでなく、1次関数につながる素材も同時に提示している。また、「Tea break」において、三角形の合同条件を学習した後、四角形の合同条件を紹介し、三角形の合同条件と比較しながら数学の発展性を示している。

教育出版では、単元の学習に入る前に、その学習に関連する既習事項を確認できる内容が充実している。また「もどって確認」では、巻末にある既習内容を系統的にまとめた「学びのマップ」と連携しており、学習を進めていく過程で学び直しができるようにになっている。さらに、3年生巻末の「ひろがる数学」の内容が充実しており、これまでの学習がどのように発展して高等学校の学習につながっているかを紹介している。

日本文教出版では、単元の学習に入る前に、その学習に関連する既習事項を確認できる内容が充実している。第2学年の1次関数の導入では、 y は x に比例する問題を扱いながら、条件を変えて1次関数の学習に入るなど系統性を意識した構成になっている。さらに1次関数の変化の割合を扱う場面では、反比例の変化の割合を調べることで、1年次の学習と関連させながら理解を深めるような構成になっている。巻末の「数学研究室」では、高等学校の学習につながる発展的な内容や他教科、日常生活に関連する内容が充実している。

調査項目1の着眼点(3)について、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善という着眼点において優れた内容となっているのは東京書籍、啓林館、日本文教出版の3者であった。

東京書籍では、生徒の「なぜ」という疑問や、日常の事象を数学的に考えることを促すことで、解決したいと思わせるような素材が適切に掲載されている。そのような導入を行うことで生徒がより主体的に、学習に向かうことができる。また、虫眼鏡のマークを使って「大切にしたい見方・考え方」を示すことにより、数学的な見方・考え方を活用して問題解決ができるよう可視化している。

啓林館では、巻頭に大切な数学的な見方・考え方を示しつつ、本編では、問題発見などの学びを広げるときに役立つ考え方をオレンジ色、問題を解決するとき役立つ考え方を緑色で分類し、教科書内のどの部分でそれらの見方・考え方を働かせているかがわかる構成になっている。

日本文教出版では、巻頭に大切な数学的な見方・考え方を紹介し、本編では、どの部分でそれらの見方・考え方を働かせているかがわかる構成になっている。特に単元終末の利用の問題では、問題発見から解決の過程、振り返りにいたる中で、様々な数学的な見方・考え方を働かせていることがわかるようになっている。

調査項目2の着眼点（1）について、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実という着眼点において優れた内容となっているのは大日本図書の1者であった。

大日本図書では、教科書の登場人物が、問題に対していくつかの考えを示す場面が多く掲載されている。そのため、生徒どうしで考えを比較したり、統合したりするなど協働的な学びを生み出しやすい構成になっている。また、「例題」では考え方を、「例」では解法を示し、類似問題である「たしかめよう」やQの問題、発展的な問題「プラス・ワン」など個の学習状況に合わせた問題が充実しているため、生徒は自ら問題を選択し、進めていくことができる。巻末の「課題学習」ページでは、生徒の興味関心に基づいて、単元で学習した内容を活用したり発展させたりする課題が位置付けられており、こちらも個の学習状況に応じて学習を進めやすくなっている。

調査項目2の着眼点（2）について、生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価という着眼点において優れた内容となっているのは東京書籍、学校図書、教育出版、啓林館の4者であった。

東京書籍では、生徒が必ず身につけてほしい基本的な問題にはハートマークがついているため、問題の重要度がわかりやすくなっている。また、「基本の問題」では、その問題に類似した内容やページ、問題番号が非常に明確に描かれているため、自身の学習の評価・改善がしやすくなっている。さらに「学びをふり返ろう」、「振り返りレポート」が用意されているため、生徒の学びを記述で確認することができ、とても評価しやすい構成になっている。

学校図書では、「確かめよう」において、その問題に類似した内容やページ、問題番号が非常に明確に書かれているため、自身の学習の評価・改善がしやすくなっている。チェックマークを記入する欄があるため、できた問題とできなかった問題が一目で分かるようになっている。章末には、単元を通した学習評価ができるようになっているため、自分ができるようになったこと、さらに良さが強く実感できる構成になっている。

教育出版では、「学習のまとめ」のページにおいて、穴埋め式の問題や、学習の感想をまとめる設問がある。また、「章の問題」では、理解度を◎○△で自己評価する欄があり、生徒自身が学習の定着について充分振り返り、評価することができる構成になっている。章末問題「学びをたしかめよう」では、その問題に類似した内容のページが書かれているチェック欄がある。「章のあしあと」というその章の学習を通したまとめを記述する設問があるため、生徒自身の学習評価や改善が非常に行いやすい。

調査項目2の着眼点(3)について、ICTを活用した学習活動の充実という着眼点において優れた内容となっているのは東京書籍、啓林館、数研出版の3者であった。

東京書籍では、「Dマーク」がついている箇所において、インターネット上のコンテンツを利用した学習ができる仕組みになっている。また、コンテンツの種類も書かれているため大変分かりやすく、必要に応じて生徒自身が適切に活用できる。

啓林館では、二次元コードを読み取ることで、デジタルコンテンツを利用した学習ができる仕様になっている。本編の多くの箇所に配置されているため、問題解決の手立てとなったり、練習問題の補充をしたりするなど、とても充実した構成になっている。

数研出版では、二次元コードを読み取ることで、様々なコンテンツを利用した学習ができる仕組みになっている。巻頭には「Link補充」、「Linkイメージ」、「Link資料」、「Link考察」、「Link探究」と、コンテンツの種類が書かれているため、大変分かりやすく、多くのページに2次元コードがあるため、ICTの活用を通して学習を充実していく構成となっている。

調査項目3の着眼点(1)について、岐阜市の生徒の実態等に適した教科用図書という着眼点において優れた内容となっているのは大日本図書の1者であった。

大日本図書では、2年生「データの比較と箱ひげ図」において、岐阜市の平均気温を取り扱うなど、岐阜市を取り扱った教材や写真が多く掲載されている。また、「社会にリンク」などの日常生活と関連付けられた読み物も非常に多く掲載されている。

調査項目4の着眼点(1)(2)(3)については特筆する内容はなかった。

数学の調査研究員5名でこれらすべての調査項目における着眼点をひとつひとつ調査研究してきた。その中で優れた内容が最も多かったのが「東京書籍」であったので、調査研究員としては、「東京書籍」が最も望ましいという結果になった。

【教育長】

種目「数学」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

数学は系統性の強い学問で、当然、単元間や学年間のつながりがある中で、小学校とのつながり、算数とのつながりという点について中1ギャップと言われているように、数学になって抽象的になって子供たちが学習に迷うことがある。小学校算数科との系統性についてより深く記載されている場面がないか。

もう1点は、数学の資質・能力の育成するために、より一層数学的活動を重視する

と言われ、解決の過程や結果を振り返る、その中で統合・発展が分かることの重要性が学習指導要領でもよく分かる。その点で2（2）において、4者あって、教員が発問や条件等を変える問題があれば、指導する教員も指導しやすいので、何かあれば教えてほしい。

【主任研究員】

1年生「比例と反比例」において、小学校の学習における比例の定義は「 x の値が2倍、3倍…になると、それに伴って、 y の値も2倍、3倍…となる。」となっている。中学校では、負の数を学習することで、関数は式の形で定義している。定義について東京書籍と大日本図書では、式の形で定義することがよくわかる。小学校と中学校のつながりというより、その違いがはっきりわかるようになっている。東京書籍はその他のところもつながりがわかるようになっている。先生方が指導できるようになっている。後の質問について、東京書籍では、2年生「考えてみよう」「説明しよう」を位置付けていて、大変見やすくなっている教科書である。

【教育長】

他どうか。よろしいか。

【採択検討委員】

小学校のときも聞いたが、岐阜県は大日本図書を使用している。岐阜市もそうである。小学校だとシェアに関わらず、内容のすばらしさをふまえて、大日本図書を採択した。中学校が今回採択になる。東京書籍で提案されたが、何か変わっているのか。教科書が変わったのか、数学教育の考え方が変わったのか、編集方針が変わったのか、変わらなかったのか、わかりやすく説明してほしい。

【主任研究員】

今回、大日本図書の教科書は新しいものでなく4年前のものである。私たち岐阜市の数学の教員は、小学校とも連携しながら取り組んできた。特に優れていたのは、代数のベクトルを使って、系統性をはっきりさせてきたこと。教えやすい、教えにくいとは別として、系統性をすごく大事にしてきた教科書であった。岐阜県では数直線や矢線を使って指導してきた。先ほどデータの話をしたが、4年前の教科書であるために、2017年度のデータである。他は2021年度のデータである。7年前のデータで、5年後は10年前になってしまう。大日本図書を使って教えることは、データの古さを含めて考えさせてもらった。東京書籍についてはその辺りを考えている。他の教科書もデータが更新されている。

【採択検討委員】

2つ質問だが、データはどの辺のことを言っているのか。データさえリバイスすれば、大日本図書を採用することになるのか。それともデータの問題なのか、岐阜県が大事にしてきた算数・数学教育の根幹に関わる問題なのか。そこが理解しづらい。データだけなら、先生方がリバイスすればよい。シェアが少ないのに大日本図書を使ってきたのは何か理由があるはずである。

【主任研究員】

もちろんデータだけで判断するのはおかしな話である。1つの理由である。それからICTの説明をしたが、ICTについては種類の豊富さがある。その点について教科書出版社が新しく作ったものは、個別最適な学びというところに関わって、自分で進めて発見することができる。これは種類の豊富さによって違う。

先ほどベクトルの話をしたが、東京書籍については、これまでの大日本図書と同様に指導ができるのではないかと考えている。教科書が違うから教え方が変わるというよりも、他の教科書がベクトルの内容を重視しながら指導方法を変えるように編集してきている。

【採択検討委員】

データはどこにあるのか。

【主任研究員】

データは東京書籍の1年生教科書に2002、2022年のデータが載っている。大日本図書は2017年のデータが載っている。

【教育長】

データのことでICT活用のことであって東京書籍にしている。先ほど、どの教科もフルモデルチェンジでなくマイナーチェンジということなので、従来、ずっと使ってきた大日本図書が東京書籍になるという明快な説明として委員の皆さんもよろしいか。岐阜市は何十年来、ずっと小学校も中学校も大日本図書を採択している。数学は系統性を重んじるので、教科書は編集の意図や構成、使う素材が極めて重要。時代に影響されない数学の本質は基本的に変わらない。そう考えると最も子供たちにふさわしい教科書であるのか。委員が話したように、令和の新しいデータの活用だけでなく、マイナーチェンジされているものよりも東京書籍がよいといったインパクトがないのかという意見をいただいた。

私も1つ。正の数・負の数の話が出たので、東京書籍、大日本図書、啓林館の素材を見てみると、通常正の数・負の数は身の回りにある気温などの負の数の事象を探してみようというところから始まるのが一般的な導入だが、東京書籍は他の教科書会社と違う。普通は正の数・負の数で気温のような素材で始まる。東京書籍は変わっていて、 $A-B$ で九九表のようにある。小学校では答えが負になることはなかった。負の数そのものではなくて、計算の結果としての負の数を扱っているのが特徴的である。他の教科書は身の回りの正の数・負の数である。この考え方が主体的・対話的で深い学びの視点からはどうか。そういうこととつながっていることはないか。ワンアクションはさんでいる素材である。他の単元では、1次方程式がおもしろい。小学校から中学校の数学が嫌いになっていきそうな入口で、いきなり身の回りの負の数を探そうではなく、このような素材から数学に出会わせようとしている編集について説明してほしい。

【主任研究員】

小さい数から大きい数を引くことは、これまでの大日本図書にはなかった。数自体を導入として扱い、節全体を見渡すようにしたり、規則性に気付かせたりして、学ば

せようとしている。

【教育長】

1つ前のページのオリエンテーションでは、「小学校のひき算では、小さい数から大きい数はひけませんでした。中学校では、これまでできなかったひき算ができるように、数の世界をひろげます。そのような新しい数や計算について考えていきましょう。」となっている。数を拡張することを導入で示している。そこは東京書籍の特徴の1つだと思う。みなさん、どうか。

【採択検討委員】

算数・数学はずっと大日本図書を使ってきた。今回東京書籍を選んだことで期待している。例えば中学校3年生の多項式の始まり、ドミノ倒しみたいなことから入っていく。今、算数・数学は生活との関わりを大切にしている。それは、「なぜ算数・数学を学ぶのか」に関わってくる。算数・数学を学ぶことはテストのためではなく、身近な生活の中で算数・数学があって、自分たちの暮らしを豊かなものにしていこうというもののために、算数・数学がある。大日本図書よりも東京書籍の方が身近な生活を大事にしている。大学の共通テストもそうだし、全国学力・学習状況調査等でもそうであって、計算式を計算するだけでなく、暮らしの中にある算数・数学の問題をつかって、それを解決していく。そういうことでも東京書籍の方が、身近な生活との関わりが強い。それが1つ。

2つ目は今回の学習指導要領では、国語や社会でもそうであったように、見方・考え方を大事にしている。見方・考え方を働かせて、問題解決をして資質・能力を培っていこうとしている。国語も社会科の地理・歴史・公民もそうだったが、どちらかというから見方・考え方を示して、それを活用していくと子どもたちも先生自身も学んでいく。国は「見方・考え方を働かせ」とあるが、中身がはっきりせず、先生方が考える。社会科では、見方・考え方を追究の過程で働かせる思考・判断と捉える人もいれば、見方・考え方は考えた結論と捉えている人もいる。例えば、大日本図書は、データは古いが、3年生教科書に、「見方・考え方がこういうものだから、こういうのを働かせなさい」と言っている。例えば、「同じように考える」、「筋道立てて考える」、「いつでも言えるように考える」、こういうのを小学校でも大事にしている。「まず」、「すぐに」、「だから」、と筋道立てて考えたり、いつでも言えるような決まりを一般化したりしている。一方、東京書籍は、初めにそういうのがないので分からない。もし、教科書の中で見方・考え方がはっきりしているのであれば、それを教えてあげるとよい。

3つ目はさっきから話題になっている。ずっと大日本図書を使っていて、その後も大日本図書を使って、卒業していく。東京書籍を新しく選んだ時に、子どもや先生にもしかしたら戸惑いがあるかもしれない。一方で、こんな期待もあるというのがあれば教えてほしい。

【主任研究員】

数学的な見方・考え方が大切になってくる。数学的な見方・考え方が分かるところは、学び方の中に数学的な見方・考え方が働く部分がある。東京書籍の教科書の1年

生には、小学校とのつなぎということで、いろいろな使い方について説明がある。0章という單元もある。数学的な見方・考え方を最初から大切にしている位置付けもある。少しでも中学校とのギャップがないようにしている。大日本図書で学んだ小学校の後、東京書籍で学ぶことに対して、同じデザインでないことに少しギャップが出てくるかもしれない。ただ、もう一度教科書を見直し、大日本図書も優れた教科書だが、東京書籍は導入の仕方も含めて、一般的に考えやすい素材を扱っている。東京書籍でもそれほどギャップはない。ずっと大日本図書を使って慣れているが、東京書籍の方が優れた点も多いことがあって、東京書籍を優位であると考えた。

【教育長】

特徴的な編集の仕方がある。生活の事象を数学の舞台にのせるというが、このページは円の弧の上にドミノが並んでいる説明がない。半円上の弧の上にドミノが並んでいなかったら数学的に成立しない。だから、こういう曖昧さが意外に生活の事象である。半円状に並んでいるに決まっているが、数学の教師からすると半円状に並んでなかったら結果が違ってくる。微妙なところがある。先ほどの正の数・負の数の計算の結果で正の数・負の数を導入することと同じように独特の言い回しがある。逆にそれが生徒にとっての探究の入り口になる。それはそれでよい。

【教育長】

たくさん意見がでたが、よろしいか。それでは採決をする。種目「数学」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認をいただけるか。承認していただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「理科」、種目「理科」の調査研究を報告願う。

【理科：主任研究員】

理科の調査研究結果について報告する。

理科では、5者について、資料①の着眼点と調査の方法に基づき、各者の特徴・よさを資料②③④にまとめた。調査研究の結果、「東京書籍」の評価が最上位となった。特に、調査項目1 (1)、(2)、(3)、2 (1)、(2)について、「東京書籍」の教科書が高く評価された。これより、順に説明する。

まず、調査項目1 (1)について、説明。探究の過程の出発点である、生徒が興味、関心を高め、課題意識をもって主体的に取り組むための手立てや、学習前後で自分の見方や考え方がどのように変容したのかを自覚するための手立てについて、第2学年の單元「化学変化と原子・分子」を例に説明する。

初めは、東京書籍。教科書12ページ。これから単元で学ぶ事柄について、文字と「スタート動画」で示されている。教科書13ページ。「Before&After」として、本質的な問いが示され、学習前の自分の考えを認識するようになっている。教科書81ページ。学習後にも「Before&After」が位置付いており、自己の変容を自覚できるようになっている。教科書15ページ。各単元に加えて、各章においても同様に、「スタート動画」や「Before&After」が位置付いている。教科書34ページ。章の

終わりに「Before&After」が位置付いている。

次に啓林館。教科書139ページ。これから単元で学ぶ事柄について文字で示されている。また、「学ぶ前にトライ！」にて、この単元の学習をとおして、説明できるようになるとよい具体的な事象についての問いがある。教科書201ページ。学習後には「学んだ後にリトライ！」が位置付いており、自己の変容を認識できるようになっている。

次に学校図書。教科書7ページ。単元を貫く課題が示され、単元の学習前後に、この課題に対する自分の考えの変容が確認できるようになっている。また、「Can-Do-List」では、「できるようになりたい目標」がチェック形式で確認できるようになっている。

次に大日本図書。教科書6、7ページ。これから各章で学ぶ事柄について文字で示されている。教科書8、9ページ。「これから学習すること」として、章と項目が記載されている。

次に教育出版。教科書6ページ。これから単元で学ぶ事柄について文字で示されている。教科書7ページ。各章で学んでいくことが文字で示されている。教科書8ページ。「学習前の私」にて、この章を貫く課題が示されている。教科書29ページ。「学習後の私」において、章を貫く課題についてふり返り、自己の変容を確認できるようになっている。以上5者の教科書を比較すると、いずれの発行者も単元をとおして学ぶことについての記載があるなか、東京書籍においては、単元、章のどちらにも生徒の興味関心を高め主体的に学ぶ姿をつくり出す工夫や、自己の考えの変容が自覚できる手立てがより多くあったので、調査研究員会で東京書籍を評価する声が多くあった。

次に、調査項目1(2)「他教科等の関連」について、「他教科との関連、日常生活や社会との関連は、どの程度取り上げられているか」という視点で、調査した。

はじめは、東京書籍。第2学年の教科書170ページ。理科の既習内容が確認できるように、単元冒頭に「これまでに学んだこと」が書いてある。教科書173ページ。先ほどの内容が、本文中にも配置されている。教科書218ページ。「★1社会科(地理)で学ぶこと」のように、他教科との関連を文字で示している。また、「★3社会科(地理)で学ぶこと」「★5保健体育で学ぶこと」のように、他教科の学習内容と関連するその教科の教科書紙面PDFを二次元コードのコンテンツとして収載しており、他教科の教科書がなくても確認できるようになっている。

次に啓林館。第2学年の教科書239ページ。「家庭科と関連」のように、他教科と関連している学習内容について記載し、学びの広がりや深まりを実感するきっかけをつくっている。

次に教育出版。第1学年の教科書106。「ブリッジ 算数」のように、他教科で学習する内容についてマークを付けて紹介している。教科書274、275ページ。全学年の巻末資料に「理科で使う算数・数学」があり、教科間の連携を図りやすいように工夫されている。教科書23ページ。各単元の中に理科の既習内容を「思い出そう」として適宜配置し、仮説や計画を立てられるように配慮されている。5者の教科書を

比較すると、いずれの発行者も他教科とのつながり、他学年とのつながりを大切にしている記載があるなか、東京書籍においては、最も数多く他教科との関連の記載があり、二次元コードのコンテンツを活用することで、他学年や他教科とのつながりがより感じられ、生徒の学びの手助けとなる手立てがあった。

続いて、調査項目1（3）「主体的・対話的で深い学び」について、「理科の見方や考え方がどのくらい具体的で分かりやすいか」という視点で調査を行った。

まずは、東京書籍。第1学年の教科書51ページ。課題の横に理科の見方や考え方が記載されている。単元の導入時や、節ごとに記載することで、各領域の大切にしたい「見方や考え方」を働かせて思考することができるようになっており、それが、主体的・対話的に学習を進めるための基盤になると考える。教科書84ページ。キャラクターの吹き出しの発言として、「性質や特徴、量」に関する内容が記載され、「質的な」見方が記載されている。別の吹き出しの中で「比較したり」「条件制御したり」する考え方が具体的に記載されている。

次に、啓林館。第1学年の教科書139ページ。理科の見方がキャラクターの吹き出しの発言にて、「質的な」見方や「比較」する考え方が示されている。5者の教科書を比較すると、一部の単元や節の冒頭にキャラクターの発言等で、理科の見方や考え方が記載されている教科書がある中で、東京書籍においては、理科の見方や考え方が学習内容ごとに具体的で分かりやすく表現されていたので、調査研究員会で東京書籍を評価する声が多くあった。

続いて、調査項目2（1）「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について説明。理科の探究学習の過程の中で、「学習を深め広げるために、一人ひとりに応じた学習活動はどのように扱われているか」や、「異なる考えを組み合わせでよりよい学びを生み出すために、他者との協働はどのように扱われているか」という視点で調査を行った。それらの特徴を、第2学年の単元「電気エネルギー」を例に説明する。

初めに、東京書籍。教科書261ページ。課題を見出して仮説を立てる場面では、「キャラクターの吹き出し」で考えさせたい視点を示し、以下に自分の仮説と、話し合い後の班の仮説をまとめる場面が設定されている。また、実験の条件に応じて複数の実験方法から選択できる工夫がなされている。教科書263ページ。実験結果を分析して解釈する場面では、理科の見方・考え方を働かせながら、自分たちの結果から考察したり、ほかの班との結果を比較したりすることの記載があり、より深い学びへとつながる工夫がなされている。教科書264ページ。分析解釈では、「考察しよう」において、理科の見方・考え方を働かせながら考える視点を示すことで、個の学習だけでなく、班での対話活動においても、探究の視点を明確にして学ぶことができる工夫がなされている。

次に、啓林館。教科書236ページ。「考えてみよう」や「キャラクターの吹き出し」で、仮説を検証するための条件制御について考える場面が設定されている。生徒の特性や興味に応じて実験方法が選択でき、日常や学習内容の疑問を解決できるように手立てが工夫されている。教科書237ページ。考察で、実験の条件制御の方法に合わ

せて考察する視点を示し、結果を分析、解釈しやすい工夫がなされている。5者の教科書を比較すると、キャラクターの吹き出しや、結果の分析・解釈で働かせたい見方・考え方が記載されている中で、「一人一人に応じた学習活動」や「より良い学びを生み出すための他者との協働」という視点で、生徒自らが学ぶ方法を選択したり、他者との関わりの中でよりよい答えを見出したりする活動を行うということについて、東京書籍がよりわかりやすく具体的に示されていた。

続いて、調査項目2(2)「生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価」について、生徒の学びの変容の自覚という視点に関わって説明する。具体的には探究の過程の中で、観察・実験を行い、その最後の場面で探究の過程をどのようにしてふり返り、さらに学習改善を図ることができるかについて、比較検討を行った。

初めは、東京書籍。第2学年の教科書21ページ。学習を改善・修正する視点について、探究の過程の中での場面ごとに、わかりやすく具体的に明記されており、自己の学び方をふり返り、学習改善につなげることができる。

次に、啓林館。第3学年の教科書199ページをご覧ください。探究の過程の最後の場面で、「探究のふり返り」を位置付け、ふり返る視点が示されている。これまで学んだことをもとにして、吹き出しの会話文の中にあるような新たな課題についていくつか例が示されている。

次に、大日本図書。第3学年の教科書76、77ページ。単元ごとに「探究活動」を位置付け、探究活動の最後の「ふり返ろう」において、これまで学んだことをもとにして、吹き出しの会話文の中にあるような新たな課題についていくつか例が示されている。以上5者の教科書を比較すると、多くの教科書で探究の過程を重要視し、その流れをわかりやすく位置付けていた。東京書籍では、探究の過程の最後に「ふり返り」という場を位置付けており、予想される結果が得られなかった場合にどの視点でふり返るとよいか、具体的な記述があった。さらには、探究の過程を改善・修正する視点がイラストを用いて、会話文の中にわかりやすくまとめられており、生徒の学習改善につなげることができるという点で高い評価を得た。

これら5つの調査項目について、東京書籍が高い評価を得た。

【教育長】

種目理科についての調査研究報告について質問意見を受ける。質問意見はないか。

【採択検討委員】

最終的に採択は東京書籍であるが、ICTの観点では、啓林館が◎になっている。理科と言え、教科書を見るだけでなく、実験するなど実感を伴った学びが大事と思うが、例えば授業に参加できなかった生徒が確かめたいというときに実験の動画を見ることが必要になると思うが、その点で東京書籍が○で啓林館が◎になっている特徴を教えていただきたい。

【主任研究員】

東京書籍、啓林館どちらもほぼ同様な形で実験の動画とか実験に関わる資料が記載されている。その中で、啓林館の1年生146ページ。こちらに密度の求める方法が

記載されている。同じ内容は東京書籍の1年生の81ページに同じ密度を求める内容がある。東京書籍の方は練習問題という形で、二次元コードを読み込んで練習問題と回答の式が出てくる。それに対して啓林館は、ただ問題と答えが出るだけでなく、動画で詳しく説明がなされている。振り返るときに、より詳しい解説があるという点で啓林館を◎とした。

【教育長】

他には。

【採択検討委員】

観点の1の(3)に関わるが、全ての教科書を並べてみると、選んでいる東京書籍だけ表紙に人が出てくる。「どうなっているのだろう」という言葉があるように、ここから、事象における不思議とかなぜとかの問題意識を東京書籍からは大切にしようということを感じる。導入はどの教科書も大切にされていると話があったが、特に啓林館と比べて、東京書籍が導入の部分で子どもたちの疑問を引き出すのに優れている点とかを、分かるところがあれば教えてほしい。

【主任研究員】

導入については、かなり両方とも似ている点はある。導入に動画があるなど。違うところは、章に入る点で、東京書籍は「Before・After」がある。単元でいえば、音・光など各章に分かれており、細かいところまで話ができ、子どもにとって章ごとに何をやればよいのか分かりやすい教科書になっていると判断した。

【教育長】

採決する。種目、理科の調査研究報告が適切かつ十分なものやってあることについて承認をいただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「音楽」、種目「一般」の調査研究を報告願う。

【音楽一般：主任研究員】

調査研究委員会では、「岐阜市教育大綱」や「第4期岐阜市教育振興基本計画」をもとに、学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、音楽的な見方・考え方を働かせた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、個別最適で協働的な学びの充実を目指すことに視点をおいて、調査研究を進めた。調査対象の「教育出版」「教育芸術社」の2者について本資料に示した。大きく4つの調査項目から調査研究し、そのうち本日は違いが顕著に見られた点を中心に報告する。

調査項目1は、学習指導要領に示された「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成することについて説明する。音楽科では、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」ことを目指している。つまり、音楽科における資質・能力とは、生徒が自ら音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉えることがもとになっている。両者とも、目次の次に「学びの見通し」をもつページを設けて

いる。

教育出版の1年生の8, 9ページ。巻頭に、「学習MAP」を位置付け、歌唱・鑑賞・創作のそれぞれの領域・分野の関わり、教材曲の学習内容などが示され、学習の見通しがイメージしやすいようになっている。また、「学習の進め方」では、各領域・分野においての学習のポイントが示されており、生徒自身が学び方を理解することができ、主体的な学習につながる。

教育芸術社の1年生の8, 9ページ。巻頭に学習内容の一覧を位置づけ、歌唱・鑑賞・創作のそれぞれの領域・分野において、資質・能力の三つの柱と教材との関わりや、各教材の繋がりがわかりやすく示されている。「教育芸術社」の示し方は、より生徒自身が見通しをもち、他教材との関わりを感じながら学びを進められるような内容となっている。

教育出版の2・3年生の上、18～21ページ。「比べてみよう」では、その教材の学習内容と関連する他教材のページが示され、系統的・発展的に学習を進められるようになっている。「浜辺の歌」は「早春賦」と比べることで学習が深まるようになっており、2・3年生の上、36～39ページの「小フーガ ト短調」は、40～42ページの「交響曲第5番ハ短調作品67」との比較が示されている。

教育芸術社では、「My Voice!」「Let's Creat!」「My Melody」「指揮をしてみよう!」など、3年間を通した学習の窓が位置付けられており、各学年の発達の段階に合わせて、継続的、系統的・発展的に学習を進めることができるようになっている。「My Voice!」を例にとりて説明する。音楽1年生の14, 15ページ、2・3年生の上、17ページ、2・3年生の下、19ページでは、発声の技能に関わるアドバイスが発達の段階に応じて示されている。

次に、調査項目2「岐阜市教育振興基本計画」について、表現領域の創作で説明する。

教育出版の2・3年生の下、30, 31ページ。「音のスケッチ」では、創作活動の過程を分かりやすく示すとともに、自分の考えをもって学習を進める場面と、仲間と作品を交流して学習を進め、仲間から学んだことをもとにして、自分の作品に生かすことができるように仕組まれている。また、教科書に掲載されている創作の作品例音源を、二次元コードから確かめることができ、生徒自身が創作活動の見通しをもって進めることができるように工夫されていると共に、無理なく指導ができるようになっている。

続いて教育芸術社の2・3年生の上、34, 35ページ。「Let's Creat!」では、創作活動の過程を分かりやすく示すとともに、じっくり自分の考えをもって学習を進める場面と、仲間と意見交換をして協働的に学習を進める場面が、意図的に位置付けられている。また、二次元コードから「創作ツール」を使うことで、試行錯誤しながら創作活動に取り組むことができ、生徒自身が意欲的に進められるように工夫されていると共に、無理なく指導することができるようになっている。また、一人で作ったリズムを仲間と組み合わせることで、音楽を創り上げていく過程を大切にし

ており、協働的な学びにつながる。

どちらの教科書も、創作の活動においては、生徒が楽しく創作ができるように、また、教師が指導しやすいように、よく考えられているが、「協働的な学び」「個別最適な学び」という点では、教育芸術社の方がよく考えられている。

次に、調査項目3について説明する。

教育出版では、郷土の伝統的な音楽や芸能などを取り上げ、地域の祭りや芸能の音楽について扱い、その特徴や暮らしとの関わりについて考えるようになっている。

一方、教育芸術社では、地域の祭りや芸能の音楽を扱うとともに、それらに取り組んでいる中学生の姿を多数紹介し、自ら郷土の伝統音楽や芸能を受け継いでいくことの大切さに気付いたり、意欲を引き出したりしている。

最後に、調査項目4について報告する。どちらの出版社もUDフォントの使用や色覚等の特性を踏まえた配色やレイアウトに配慮している。

教育芸術社では、二次元コードが大変豊富に掲載されており、パート練習のための音源やワークシート、鑑賞曲の譜例など、生徒が必要に応じて活用することができるようになっている。楽譜の例を、両者ともにある教材曲「花」で説明する。

教育出版の2・3年生の下、12, 13ページ、教育芸術社の2・3年生の下、12, 13ページ。

教育出版では、速度を *allegro moderato* (♩=60 ぐらい) と速度記号で示されている。一方、教育芸術社では、♩=60~66 と数値で速度が記載されており、より具体的になっている。また「♪す〜み〜だ〜が〜わ〜」の、母音で伸ばすところには、スラーが記載されている。このように、楽譜について、教育芸術社が、速度が数値化して示されているものが多かったり、母音でつながる部分にはスラーをつけたりして、どの生徒も学習しやすいよう工夫されている。説明した調査項目を含め、すべての調査項目・着眼点について、調査した。その結果、岐阜市の生徒にとって、教育芸術社がより望ましい教科用図書であることを、調査研究員の見解として報告する。

【教育長】

種目「音楽：一般」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見はないか。

民謡や伝統芸能についての紹介があった。「ソーラン節」が教育出版と教育芸術社の両方に掲載されており、教育芸術社は楽譜、五線譜で書かれていない。一方、教育出版では、五線譜の楽譜で掲載されている。この違いや編集の意図があるように思われるが、調査をした着眼点というと、こちらのほうがよいという判断につながっていくのか。楽譜で記載されていないことについて理由がわかれば教えてほしい。

【主任研究員】

もともと民謡は五線譜に表すことができない要素がたくさんあり、教育芸術社のものは、図譜で表している。どちらが「正しい」や「いい」ではなく、子どもたちに学びやすいものであることや、様々な楽譜に触れ合うことが重要であると考えた。器楽の教科書にも縦の楽譜や横の楽譜もあるので、様々な楽譜に触れ合ったり、標記の方

法を知ったりするということから、子どもたちの関心を高めることができると考える。教師の支援としては、どちらがよいかというと、先生の考え方になると思う。

【採択検討委員】

全国の民謡一覧が掲載されているが、岐阜県には「郡上」と「木曽」があるが岐阜市には民謡がないのがさみしいと感じるがいかがか。

【主任研究員】

私的な考えであるが、岐阜市にもたくさん小さい民謡があるので、代表的なものが出てこないのではと推測している。

【採択検討委員】

岐阜に郡上節の中にも「かわさき」や「はるこま」は代表的であるが、その他以外のものは出てこないことがあるので同じ考えかもしれない。

【教育長】

では、採決する。種目音楽一般に調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う（全員挙手により承認）

続いて、教科「音楽」、種目「器楽合奏」の調査研究を報告願う。

【器楽合奏：主任研究員】

現行の学習指導要領に準拠した教科書選定も2回目となり、「教育出版」「教育芸術社」の2者とも、前回の教科書の方向を周到しつつも、より「ICTの活用」や、「社会や生活と音楽との関わり」を意識した内容となっている。また、これまでも大切にしてきた、我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導など、より充実と工夫が各所に見ることができた。

まず、はじめに、両者とも、学習する楽器として、リコーダー、ギター、箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八が扱われている。また、教育芸術社は、そこに、授業の中で使う、クラベスやボンゴなどの打楽器を簡単に紹介している。学習する楽器には、両者ともに、大きな違いはないが、各楽器を学習する「導入」において、それぞれ、特徴があった。ギターの学習を例にとって説明する。

教育出版の32から37ページ。教育出版では、演奏スタイルがよくわかる写真、構え方や楽器の各部分の名称などを、写真や図を使って示している。ギターについての基本的な知識を学んだ次に、演奏の仕方や色々な奏法、そして簡単な曲の学習と、生徒が自然に無理なく学習を進めることができるように、構成されている。

教育芸術社の26から31ページ。教育芸術社では、学習の導入である1ページ目に、演奏スタイルがわかる写真とともに、「ギターの演奏を聴こう」として、ギターの名曲が示され、鑑賞の活動とも融合が図られている。また、クラシックギターの他、フォークギター、エレキギターの紹介、様々なギターの演奏スタイル、弾き語り、二重奏、バンドなどの紹介もあり、ギターへの興味・関心を沸き立たせるようにしている。生徒たちが、ギターへの関心を高めたうえで、2ページ目以降、各部の名称や構え方、奏法などの学習というように構成されている。生徒が、限られた音楽の時間の

中で、楽器の技能を身に付けるには、主体的に学ぶ姿勢が重要となる。その楽器に、興味をもったり、これまでの生活経験の中で、その楽器との関わりを想起したりするなど、学習する導入は、とても重要。その点では、教育芸術社はよく考えられている。

次に、リコーダーのアーティキュレーションの学習を例に説明する。

教育芸術社の16, 17ページ。教育芸術社では、段階的に教材曲の学習を進めていく中、アーティキュレーションの学習として、4つの奏法が示されている。その後に、学習した教材曲「聖者の行進」の学びを繋げて、「学びのコンパス」が示されている。「聖者の行進」の最初の部分の表現を、アーティキュレーションを生かして高めていくようになっている。音楽的な見方・考え方を働かせ、習得した技能を生かして表現を高めたり、仲間との対話によって、表現の仕方の工夫や音楽のよさや美しさについて考えを広げ深めたりすることができるようになっている。

教育出版の20ページ。教育出版でも、リコーダーの学習を段階的に進めていく中で、アーティキュレーションの学習が示されている。4つの奏法が示されていることは同じであるが、音の長さが意識できるように、図解で視覚的に分かりやすく示されている。そして、その学びを、次に学習する教材曲に生かすという構成になっている。技能を習得していく中で、仲間とよりよい表現を目指し、思考したり判断したりしながら、技能を高めていく点においては、「教育芸術社」の方が、より、リコーダーの魅力を感じることができるのではないかと考える。

また、教育芸術社84, 85ページ。「学びのコンパス」が、他の教材曲にも位置付けられている。アンサンブルの学習である、教材曲「Session I」の学習につなぎ、曲の構成や音の重なりから、音色や強弱といった注目するポイントにそって表現を高めていく。音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽を形づくっている要素に着目しながら、主体的に、そして仲間と関わりながら表現を高めていく楽しさが味わうことができるようになっている。

今回の教科書改訂においては、「音楽と社会や生活との関わり」という視点が、どの教科書においても、特に大切にされているように感じた。これは、「器楽」だけでなく、「音楽一般」の教科書も同じだった。器楽の教科書を例にとって説明する。

教育出版の4ページ。教育出版では、巻頭に「音楽とチカラで人と社会を未来へつなぐ」というページが位置付けられ、ストリートピアノが紹介されている。岐阜市役所や柳ヶ瀬グラスル35のストリートピアノなどを想起することができ、自分の生活や社会と音楽との関わりを考えられるようになっている。

教育芸術社の4, 5ページ。教育芸術社では、巻頭の音楽家のエッセイの次のページに、「音楽って何だろう?」が位置付けられている。音楽や音が、私たちの生活や社会の中で、どのように関わっているのか、どのように生かされているのかなどを、写真やエッセイによって紹介し、生徒たちが考えられるようになっている。どちらも違う切り口ではあるが、「音楽と社会や生活との関わり」を大切にしていこうとする意図が分かる。今回の教科書改定において「音楽一般」「器楽」の教科書のすべての特色だと感じた。学習指導要領の中学校音楽科の目標に「表現及び鑑賞の幅広い活動を通し

て、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」とあるように、「音楽と生活や社会との関わり」というものを大切にして音楽の授業を進め、岐阜市の生徒を育てていく実践を重ねていかなければならないと考えている。

以上、岐阜市の音楽科指導の「器楽」の教科書として、教育芸術社が適していると判断した。

【教育長】

種目「音楽」「器楽合奏」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見はないか。

報告の中でギターの説明があった。テイラースイフトやエリッククラプトンなどのギタリストの掲載があったが、どのような見解か。

【主任研究員】

子どもたちの興味を高める工夫。ギターは身近な楽器であり、子どもたちの関心と結び付けながら学習に取り組むことができることは大切であると考え。写真からてがかりにするなどの工夫から教育芸術社が適していると考え。

【教育長】

世界的なスターから影響をうける生徒もいるということか。ギターはクラシックギターを紹介しなければならないということではないのか。また、学習指導要領にはそのような記載はあるのか。

【主任研究員】

そのような記載はない。

【教育長】

触れる機会としては圧倒的にギターが多く手にすることになると思う。

それでは採決する。種目「音楽 器楽」の調査研究報告について適切かつ十分なものであることについて承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「美術」、種目「美術」の調査研究を報告願う。

【美術：主任研究員】

美術科は、造形的な視点、つまり色や形などを通して、身の回りのもののよさや美しさを感じ取り、また多様な文化や考え方への理解を深めて、心豊かな生活ができるようにする教科。そのために、次の3つの資質・能力を育むことをめざしている。①造形的な視点を理解し、表現方法を創意工夫して表すこと②豊かに発想・構想したり、美術への見方や感じ方を深めたりすること③創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する態度や情操を育むことの3つ。これらは学力の3つの柱、すなわち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」に関する内容を示している。これを踏まえ、全教科共通の4つの調査項目を確認した上で「光村図書出版株式会社」「日本文教出版株式会社」「開隆堂出版株式会社」の3者を調査した。

その結果について、主な項目ごとに報告する。

まず調査項目1、「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成すること」。着眼点(1)に関わり、題材のバランスについて報告する。

光村図書では、全題材数は47。そのうち絵や彫刻21、デザイン工芸10、鑑賞16。絵や彫刻の分野の題材が多く、デザイン工芸の約2倍となっている。

日本文教出版では、全題材数は65。そのうち絵や彫刻29、デザイン工芸23、鑑賞13。2・3年生が上下巻に分冊で分かれているため、題材数は最も多く、種類もバランスが取れている。

開隆堂出版では、全題材数は33。そのうち絵や彫刻13 デザイン工芸11、鑑賞8。題材数は最も少ないが、鑑賞題材として諸外国の作品も豊富に取り上げ、写真資料が全体に大きく斬新なものが多いのが特長。

続いて(3)「主体的・対話的で深い学び」を促す記載について報告する。3者とも、造形的な見方・考え方を働かせることができるよう、全題材に造形的な視点を踏まえた3つの学習目標をわかりやすく示している。

光村図書、2・3年生の22ページ、形と色の挑戦。主題をもとに方法を試しながら「色や形」を作品にまとめていく過程が大変分かりやすく示されている。右ページに発想構想の方法が紹介され、思考と表現の流れがわかりやすく、主体的な学びができるよう工夫されている。

日本文教出版、2・3年生の上20ページ、イメージを形にする。生徒作品に「作者の言葉」を掲載し、主題に応じて色や形をどのように選択するかわかりやすく示して、主体的な学びができるように工夫されている。

開隆堂出版、2・3年生、66ページ、ひと目で伝える表示。先生と生徒のキャラクターを掲載し、それぞれの視点から造形と表現のポイントを示すことで、主体的な学びができるように工夫されている。

次に調査項目2の(1)、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について報告する。

光村図書、2・3年生の56ページ、自画像と10ページ、美術の扉を開こう。「みんなの工夫」の中で、具体的な願いや疑問を吹き出しの形で豊富に取り上げ、自分の主題に応じた選択や決定ができるように工夫されている。また、1年次の導入では、仲間と作品を見比べて鑑賞し合いながら意見交換をする共同的な学習の様子が紹介されている。

日本文教出版、2・3年生の下10ページ私自身を見つめてと、1年生、6ページようこそ美術について、「造形的な視点」と「表現のヒント」、立体を含めた同世代の多様な表現を掲載し、幅広い方法の中から主題や願いに応じた選択や決定ができるように十分に工夫されている。1年時の導入では、個で制作する様子とともに仲間と制作する協働的な学習の様子が紹介されている。

開隆堂では、2・3年生、14ページ、自分と向き合う、1年生の2ページ、図画工作からについて、生徒作品を多数掲載したり、マインドマップを活用して発想を広

げる方法を紹介したりして、主題に応じた選択や決定ができるように工夫されている。1年時の導入では、学習を深めるため、テーマや感じたことを話し合うなど協力して制作に向かうことの良さを紹介している。

次に調査項目2の(2)、「生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価」について報告する。1年生の水墨画題材を例に説明。

光村図書、1年生の28ページ、墨で表現する楽しさについて、左ページに「鑑賞」として造形的な視点をもって「～しよう」と学びを促す言葉が位置付けられている。右ページには、表現のヒントが示されており、鑑賞した内容を自分の表現にどう活かすかを考えやすい構成になっている。

日本文教出版、1年生の30ページ、墨と水が描く世界について、「鑑賞の入り口」が質問形式でわかりやすく記載されており、教師にとっては発問、生徒にとっては学習課題及び振り返りの視点としてそのまま活用できるよう工夫されている。内容が「造形的な視点」と一体化しており、鑑賞と表現を相互に関連させながら、学びを深めやすい構成になっている。

開隆堂では、2・3年生の22ページ、墨から生まれるについて「鑑賞」から始まり、「発想・構想」「知識・技能」の順で、課題を確認しながら取り組めるように構成されている。生徒や作家の作品が豊富に紹介されており、表現のヒントを見つけやすい構成になっている。

続いて調査項目2の(3)「ICTを活用した学習活動」について報告。

光村図書、1年生の16ページ、感じ取り、描くについて、全題材に二次元コードが配置され、技法の解説や、鑑賞資料、書き込みツール、全国の生徒作品などが参照でき、大変充実している。

日本文教出版の1年生、12ページ、見つめて、感じて、描いてについて、全題材に二次元コードが配置されている。題材導入時な活用しやすいよう、「学びのはじめに」として学習意欲と造形的な見方・考え方を高めることを目的とする2分程度のコンパクトな動画にまとめられている。

開隆堂の1年生、10ページ、スケッチブックから広がるについて、題材導入コンテンツとして二次元コードが配置され、「はじめに」「作家作品」「生徒作品」「ワークシート」などの項目に整理されている。

次に調査項目3、「地域性のある題材、素材」について報告する。

光村図書の2・3年生、92ページ、憩いの場をつくるについて、美濃焼の鉢、イサム・ノグチ氏のAKARI、「ぎふメディアコスモス」など、岐阜ゆかりのものが具体的に多く取り上げられている。

日本文教出版の2・3年生上34ページ、日本の技と心を受け継いでについて、岐阜の各地で生産される木・土・和紙を素材とする題材の取り扱いが多く、関連して地域の素材について学び、よさが味わえるように配慮されている。

開隆堂の2・3年生、77ページ、生活を楽しく心地よくについて、空間デザインの一例として多治見市モザイクタイルミュージアムが紹介されている。木・土を素材

とする題材も豊富に取り上げられている。

最後に調査項目4「印刷や製本」等について報告。

光村図書では、美術1、別冊美術1資料集、美術2・3の計3冊となっている。技法などは別冊資料集にまとめられており、美術2・3には資料部分はあまり配置されていない。2・3年生は、資料集と2・3の2冊が必要となる仕様。

日本文教出版では、美術1、2・3上、2・3下の3冊で構成され、3冊とも資料部分が配置されている。生徒の持ち運びの負担に配慮し、一冊の重量が現行のものよりも30～40gほど軽減されている。

開隆堂では、美術1、2・3の計2冊。2冊とも資料集的部分が配置されている。A4ワイド版を生かして、図版は全体的に大きくて見やすく、原寸大の図版が15か所ある。また表紙は立体加工された特殊印刷になっている。

以上を踏まえ総合的に判断した結果、「日本文教出版株式会社」の教科書が最も適していると判断する。

【教育長】

種目「美術」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

I C Tのことで、現行の学習指導要領で、デザインの学習のようなものに、タブレットで色を変えるなど何回でもやり直しができるので活用できると思うが、そういったことは、日常的な授業の中で実施しているか。

【主任研究員】

かつては、ポスターカラーやアクリルだったが、今は色の学習を中心として、あえて色によってどういう効果がでるかなどを中心に、どの学校でも取り入れるように努力をしているところ。

【採択検討委員】

あたりまえの現状として美術の時間に行われていということか。

【主任研究員】

これまでは、配色カードなどで計画して、実際ちょっと塗ったりしてイメージは持つのだけれど、全体でみるとちょっとイメージが違うとか、ここを調整したいとかが出たりしていた。今は、配色を中心に、タブレットを活用して、色を簡単に変え、伝えたいことを伝えるための配色を、よりたくさん試して学べるように実践されている。

【採択検討委員】

そういう点でも、光村図書と日本文教出版は秀でているということで◎なのか。

【主任研究員】

光村図書は二次元コードの中身が技法の解説とか鑑賞の資料、生徒の作品などの目次に分かれているので、使用したいときにそれを見る形になる。日本文教出版はそれよりも、導入コンテンツとして題材の魅力や、学習によって具体的にこんな力がつくなどの動画が中心になっている。どちらも私たち指導者にとっては使いやすい内容であ

る。使い方には少し違いがあるが、どちらも魅力があるということで、◎にしている。

【教育長】

それでは採決する。種目「美術」の調査研究報告について適切かつ十分であることについて承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う（全員挙手により承認）

続いて、教科「保健体育」、種目「保健体育」の調査研究を報告願う。

【保健体育：主任研究員】

調査研究の対象となった教科書、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研の4者について、資料①の着眼点と調査の方法に基づき、各者の特徴・よさを資料②③④にまとめた。まず、4者の教科書のよさの概要について伝える。

東京書籍は、大きな特徴として日常体験から自他の課題発見につながる発問が設定され、学習課題を自分のものとし、主体的に課題解決に取り組むことができるように配慮されている。また、デジタルコンテンツの中でも動画の種類が多岐にわたり、豊富に用意されている。

大日本図書は、1単位時間を、「学習のねらい」→「つかもう」→「いろいろな学習活動」→「活用して深めよう」→「まとめよう」→「毎日の生活に活かそう」で構成し、学習過程が明確になっている。また、各章末の「学びを活かそう」で、自らの課題を発見し、主体的に取り組むなかで、資料から読み取る、友達と話し合うなど、対話を通して思考を広げて深めていく活動を通じて、深い学びが実現できるように配慮されている。

大修館書店は、学んだことを社会や生活に広げたり、深めたりすることができる「特集資料」を設けて、社会や生活との関わりの中で学んだことの意義を実感し、さらなる学びへの意欲を高めることができるように工夫されている。また、各章のとびらでは、中学生の日常生活を中心に写真を随所に配置し、中学生が抱く疑問を掲げ、その章の学習課題を自分のこととして捉えられるように工夫している。

学研は、自身の体験や生活に基づいた課題や、学習したことを自身の生活改善や実践につなげられる課題を随所に設け、個別最適な学びに活かすことができる工夫がある。また、教え合う、学び合う活動や、特にグループでの活動に適した課題には「協働」のマークが設けられ、協働的な活動を生み出す工夫がある。

これら4者の教科書を、資料⑤にある。ように4項目10の着眼点で比較した結果、東京書籍と学研の2者が優れているため、これ以降は東京書籍と学研の2者を中心に説明する。

まず、項目1「学習指導要領 資質能力の三つの柱をバランスよく育成する」にかかわって。着眼点【1－(3)】主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、第2学年「健康な生活と病気の予防」の単元を例に説明する。

まず東京書籍の教科書、104ページについて説明する。導入として「見つける」が位置付けられており、事例から学習課題につなげることから、生徒が意欲的に学習に向かうことや学習する内容を理解するなど、主体的に学ぶ工夫がされている。また、

終末の「活用する」では、導入での「見つける」の事例に立ち返り、飲酒を断れなかった背景や対処法について話し合う活動を通して、深く考える構成となっている。さらに発展として、喫煙・飲酒・薬物乱用を防止するための社会的な取り組みについて調べる「広げる」が位置付けられており、これまでに学んだことを生かしてさらに知識を広げて深く学ぶことができる構成になっている。

次に学研の教科書、98ページについて説明する。導入として「ウォームアップ」が位置付けられており、これまでの学習を振り返ることで、必然のある課題を見出すことができ、つながりや目的をもって学習に向かうことができる工夫がされている。また、「エクササイズ」では、喫煙や飲酒を防止するための対策を調べるだけでなく、今後どんな対策が必要かを考える内容となっており、学習した知識や情報をもとにして、新たに自分の考えを深めていく工夫がある。教科書101ページについて説明する。「もっと広げる、深める」として、誘われた時にどう断るかの演習をすることで、仲間との対話を通して深い学びができる構成となっている。また、たばこ、酒、薬物のそれぞれについて演習が可能な構成となっており、広い視点での見方や考え方を身に付ける工夫もされている。

次に、項目2「第4期岐阜市教育振興基本計画「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」」にかかわって、着眼点【2－(3)】ICTを活用した学習活動の充実について説明する。

まず東京書籍の教科書、8ページについて説明する。ここには、「Dコンテンツマークを使ってみよう」として、デジタルコンテンツの種類や内容、使い方について2ページを用いて示されている。具体的な内容について示されていることで、生徒がICTを主体的に活用することや必要に応じて自分で選択して活用することができるような配慮がされている。また、東京書籍のデジタルコンテンツの特徴として、動画の種類が豊富であり、生徒の好奇心を高めることや文字や絵だけでは伝わりにくい内容について正しく理解できるように工夫がされている。さらに、「思考ツール」では、考える内容やプロセスが可視化され、より主体的に思考する活動に取り組むことができる工夫がされている。

次に学研の教科書、8ページについて説明する。ここには、「この教科書の使い方」として、教科書の構成や学習の流れについて示されている。デジタルコンテンツについては、教科書サイトの案内があり、二次元コードを読み取ってアクセスすることの説明がある。学研のデジタルコンテンツの特徴として、ワークシートと外部リンクが豊富にあり、外部リンクは、より発展的な内容や学習したことをさらに深く学ぶために活用ことができ、生徒の探究心をさらに伸ばすことができるような配慮がされている。

最後に、項目3「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」にかかわって、着眼点【3－(1)】岐阜市の生徒の実態等に適した教科用図書として、主に「生命の尊厳への理解を深めること」について説明する。

はじめに、第1学年「心身の発達と心の健康」の単元を例に、まず東京書籍の教科

書、35ページについて説明する。ここでは受精と妊娠の仕組みについて学習をする。資料9にあるように、受精と妊娠の仕組みについて図で示されており、3億の精子が卵子と受精するのは1つだけであり、奇跡の出会いという解説がある。また、教科書50ページには胎盤とへその緒の関係についての資料があり、母体の神秘として紹介されている。

次に学研の教科書51ページについて説明する。資料6にあるように、排卵、受精、着床の流れが1枚図によって示されており、図や写真が大きく、視覚的にも見やすくわかりやすい配慮がされている。続いて、第2学年「健康な生活と病気の予防」の「がんの予防」を例に説明する。岐阜市ではがん教育を推進しており、保健体育でのがん教育の充実や専門医による講話を行っている。こうしたことから、この単元について両者を比較することとした。

両者ともにがんの定義や性質、要因と予防、早期発見と治療について、資料を合わせて2ページを用いて学習する構成となっており、この点で大きな差はない。

まず東京書籍の教科書、106ページについて説明する。ここでは章末資料「がんをもっと知ろう」として、がんに関する発展的な知識や情報について示されている。がんは不治の病ではなく、早期発見や早期治療によって回復したり、進行を食い止めたりできると説明があり、正しい知識と情報を得るための配慮がされている。

次に学研の教科書102ページについて説明する。ここでは、「探究しようよ」として、「がんの治療」と「がんとともに生きる、がん患者と共に生きる」の2つで構成されている。がんの治療については、東京書籍でも示されているが、「がんとともに生きる、がん患者と共に生きる」は、学研のみが示している学習内容である。特に、がんになった人の気持ちや、身近な人ががんになったときに自分たちに何ができるのかを考えることを通して、命の大切さや一人一人が価値ある大切な存在として、互いに認め合う気持ちを育むことが可能である学習内容である。さらに、教科書39ページには、学研の教科書の特徴として、第1学年「健康な生活と病気の予防」の単元の「探究しようよ」において、脳死と臓器移植について示されている。教科書にも明記されているとおり、臓器移植は高等学校で学習する内容であるが、15歳から臓器提供の意思表示ができることから、生命の尊厳について深く考えるきっかけとなる学習内容であると評価した。なお、脳死や臓器移植について示しているのは学研だけであった。

以上、評価の高かった上位2者の教科書を検討した結果、中学校保健体育科調査研究員会としては、最終的に「学研」が最も適していると判断した。

【教育長】

種目「保健」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

保健体育とは関係ないかもしれないが、岐阜市が大切にしている生命の尊厳について、先日、小学生が中学校のプールで亡くなった事故や、若者が自ら命を絶つような実態がある。学校安全や命の大切さについてメッセージ性のある部分はあるか。

【主任研究員】

自死に関して直接的に取り扱っている内容はないが、メンタルヘルスやリラクゼーションの方法という内容において、心と体の安定やSOSの出し方にかかわる具体的な内容が示されている。事故防止については、東京書籍は野外活動の特に川での活動に関して、学研では溺れている人に出会った時の対処法という内容でそれぞれ紹介されている。

【採択検討委員】

自然災害について、今の学生や若者はあまり知らない実態がある。被害にあわず助かった人とそうでなかった人の差は、教育の部分ではないかと思う。そういった自然災害と教育の繋がりに関して、学研の方が優れているという部分はないか。

【主任研究員】

自然災害に備えてという節があり、その中で自然災害の発生方法や起こった時の対応方法について2者とも示されているが、学研の方がより具体的である。

【採択検討委員】

性教育に関して、学研が優れているということであったが、東京書籍では「神秘的」という言葉が使われており、よりよいと思う。知っているだけではなく、命の誕生は素晴らしいものであると感じさせる教材と考えれば、東京書籍ではないか。

【主任研究員】

性に関する内容のみで見れば、東京書籍の内容がよいかもしれないが、教科書全体的なバランスを見て評価している。生命の尊厳という視点からよりよい教材と考えると、学研と判断した。

【採択検討委員】

メンタルヘルスやリラクゼーションの方法という内容において、心と体の安定やSOSの出し方にかかわる具体的な内容が示されている学研は大変良いと思った。また、性の多様性に関して、これまではLGBTという言葉が多く使われていたが、新しい言葉としてSOGIが使われるようになってきていることが分かる。その内容についてはどう評価しているか。

【採択検討委員】

東京書籍については1ページ、学研については半分のページとページ数をみると学研は少ないものの、内容は網羅されていると評価した。

【教育長】

それでは種目保健の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「技術家庭」、種目「技術」の調査研究を報告願う。

【技術：主任研究員】

技術・家庭科 技術分野の調査研究について報告する。私たちが生活する岐阜市の代表的な建築物の一つに、ぎふメディアコスモスがある。今回調査をした、教科用図

書に、大きく写真とともに紹介する記載があった。傍らには、岐阜県岐阜市とあり、誇らしい気持ちになった。

さて、技術分野の学習では、実践的・体験的な活動を通した問題解決学習により、子どもたちの資質能力の育成を目指している。また、生活や社会と技術とのかかわり方から、各種の条件や制約とのバランスも含めて思考する「技術の見方・考え方」を育む視点を大切にして、調査研究を行った。技術分野の調査対象はここに提示する3者である。では、3者の大まかな特徴を報告する。

東京書籍は、生活や社会の中にある課題を各種の関連する資料をもとに、課題解決の糸口を配列し、深く思考することで、解決策を導き出す展開となっている。

教育図書は、生活や社会を豊かにしていく製作や実習を行う中で課題を見つけ、その課題に必要な知識や技能を学ぶことで、新たな学びを生み出す展開となっている。

開隆堂は、生活や社会の中にある課題を、願いや要求から分析し、科学の考え方の活用により、問題解決の糸口をつかみ、解決していく展開となっている。

それでは、まず、調査項目1（2）他教科での学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性において、エネルギー変換の技術における「電気回路」で、具体的に報告をする。

東京書籍148、149ページでは、学習内容毎に小学校や他教科等で学習した教科および単元名が記載されていた。例えば、電源や導線、負荷、電流、電圧、直列、並列等の用語が出てくるが、小学校理科や中学校理科の単元名が記載されていた。

教育図書118、119ページでは、学習内容毎に小学校や他教科等で学習した教科名が記載されていた。例えば、電源や負荷、導線、直列、並列等の用語が出てくるが、中学校理科と記載されていた。

開隆堂174、175ページでは、内容の最初のページにのみ、関連する小学校や他教科および学年が示され、電源や負荷、導線等の用語が出てくるが、つながりは、内容の巻頭見開きページ159ページに記載された構成となっていた。

続いて、調査項目1（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善において、学びを深めるための資料の提示の在り方を、生物育成の技術における栽培カレンダーや、栽培ごよみより報告する。

東京書籍110、111ページでは、見開きに18種類の作物を栽培カレンダーで提示し、作物の特長や、栽培管理について、生徒が、興味や関心、条件に応じた比較と選択ができるよう、豊富な資料提示があり、相互に意見を交流しやすいものになっていた。

教育図書92、93ページでは、2種類の作物を栽培ごよみで提示し、作物の特長や、栽培管理について、生徒が参考にすることができるものになっていた。

開隆堂132から135ページでは、見開きに18種類の作物を栽培ごよみで提示し、作物の特長や、栽培管理について、生徒が興味や関心、条件に応じて、比較と選択ができるように、相互に意見を交流しやすいものになっていた。

次に、調査項目2（1）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について、

生物育成の技術における、作物の栽培管理、施肥から報告をする。

東京書籍 97 ページでは、肥料の三要素を学ぶ。この学んだ知識をもとに、トマトの健康の管理 116 ページでは、トマトの健康状態の例がイラストと写真で示され、葉の状況から栄養の欠乏や過多についての詳しい説明により、生徒が育てる作物の生育状況に合わせた学びや作業ができる資料となっている。

教育図書 77 ページでは、肥料の三要素を学び、102, 103 ページで、ミニトマトの題材における追肥の選択をしやすくなっているが、生育や葉の状態を確認しながら施肥を行う内容の記載は確認できなかった。

開隆堂では、随所にトマトやミニトマトが記載され、113 ページで、肥料の三要素のはたらきを学び、136, 137 ページで、ミニトマトの栽培につながる構成になっているが、追肥の記載はあるものの、生育や葉の状態を確認しながら肥料を選ぶ記載は確認できなかった。

最後に、調査項目 3 (1) 岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書について、報告する。冒頭でも紹介したが、本調査を行い、岐阜市に関連する建築物、建造物が確認できたのは、教育図書 14, 15 ページにある、ぎふメディアコスモスのみであった。ここでの調査は、岐阜市の子どもたちにタブレット端末が導入され、小中学校問わず、デジタル・シティズンシップ教育の推進が必須事項になっている今、情報社会のマイナス面から、禁止事項を列举して、使用を制限する使い方ではなく、プラス面とマイナス面を比較し、より望ましい使用法を考え、実行していける子どもたちを育てていくための視点より報告する。

東京書籍 212 から 216 ページでは、情報モラルを、情報検索、情報発信、情報サービスについて、便利な点と、注意すべき点の、6 つの事例から比較し、生徒に考えさせる構成である。岐阜市のデジタル・シティズンシップ教育と強く連携した学習ができると考える。

教育図書 186 ページでは、個人情報漏洩、写真の投稿、著作権、フェイクニュースについて、4 つの事例を取り上げてある。

開隆堂 23 ページの「情報機器を使った、生活や社会とのかかわり方」の一部に、「デジタル・シティズンシップ」の用語は確認できた。ただし、「知識や能力のこと」という記載であった。234, 235 ページでは、情報モラルを、個人情報の保護、人権・プライバシーの保護、肖像権の保護について、事例をもとに注意事項が紹介されていた。

これらの調査研究の結果から、3 者を総合的に判断したときに「東京書籍」を候補として推薦する。

【教育長】

種目「技術・家庭科」技術分野についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。メディアコスモスについて最初に説明があつてすごくいいと思ったが、結論は違うということだが。

【主任研究員】

技術分野的な内容において、メディアコスモスについて環境に関する内容が記載してあったが、これが構造的に強度を保つこととか、構造的な内容であれば、少し変わったかもしれないが、自然光を取り入れるとか、光の流れとか、少し技術の構造的なこととは違った内容で説明されていた。その内容は他の教科書会社にも記載されていたため、写真はよかったが、今回は東京書籍がよいと判断した。

【教育長】

この写真は、この写真で大変いいが、それだけで、着眼点3の「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」となるわけではないということだが、その他、着眼点3について何かあるか。

【主任研究員】

デジタルシティズンシップの内容が着眼点3と関わってくる。

【採択検討委員】

トマトの栽培について大変詳しく書いてあり、岐阜県は、23歳から35歳までの教員が多く、若い先生たちも使いやすいのではないかと思った。国の調査で、4分の1は技術の免許を持っていない先生が教えているということだが、先生が休んだりしたときに、代わりに教える先生が、これだと丁寧でわかりやすくいいのではと思った。小学校の生活科でトマトを育てるが、葉がしおれることが多く、子どもたちは「枯れた枯れた」と言うが、東京書籍はそういったことについても詳しく書かれていていいと思った。質問だが、どの教科書も情報モラルと書いてあるが、岐阜市はデジタルシティズンシップと言っている。全国的には情報モラルを使っているのか。

【主任研究員】

全国的にはどう使っているのか分からないが、学習指導要領には、情報モラルが使われている。

【教育長】

岐阜市は学習指導要領に先んじて、危ないから使ってはいけないではなくて、情報社会の中で、積極的に情報と共に生きていく力をどうつけていくのかそういった考え方で進めている。高校の情報先生を話していると、教科書を採択しても、3年、4年も使っていると、AIとか人工知能もそうだが、内容が古くなって使えなくなっていく。テクノロジーの分野はどんどん変わっていくという話を聞くが、中学校の技術では、そのあたりの影響についてはどう考えるか。

【主任研究員】

中学校の技術科において関連するのがプログラミングの学習になると思うが、岐阜市にはマイクロビットという制御盤のマシンが導入されている。これが高等学校や実際の現場などでも使われているプログラミングの基礎になる教材として有効であり、今回の調査ではこのマイクロビットの記載が、東京書籍が一番豊富であったし、写真などの事例も他の二者に比べて多かった。いずれの教科書会社もプログラミングについての扱いはあるが、岐阜市で導入しているマイクロビットを豊富に扱っているという点でも東京書籍が適していると言える。

【教育長】

それでは種目技術の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認)

続いて、教科「技術家庭」、種目「家庭」の調査研究を報告願う。

【家庭：主任研究員】

家庭分野では、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者である。資料に示した調査項目、着眼点、調査方法から調査研究を行った。

はじめに、着眼点1－(1)について、その育成のための教科書の構成と配列について説明する。技術・家庭科では、内容A 家族と家庭生活、内容B 衣食住の生活、内容C 消費生活と環境の3つの内容で構成されており、3年間の指導計画は、地域と生徒の実態に合わせ、各学校で適切に立案することになっており、必ずしも教科書の順番に学習しなくてもよい。まずは、内容の配列について、その違いを報告する。

東京書籍は、内容Aのガイダンスの次に、内容B、内容C、そして、内容A という順で配列されている。

教育図書と開隆堂については、ガイダンスを含む内容A、内容B、内容Cの順に配列されている。この2者は、各校で立案した指導計画に合わせて、使用するページを選ぶ配列がされている。

3者とも、巻頭では家庭分野のガイダンスを扱っているが、巻末の扱いが違い、東京書籍のみ将来の生活への夢をもたせるページが設けられている。また、各章のまとめについては、東京書籍と開隆堂は、学習したことのまとめとして、「持続可能な生活」を考えさせる工夫があり、教育図書は「生活の課題と実践」で結ぶ工夫がされている。各者それぞれの工夫があり、各学校の意図に沿って使用できるように配列されている。

次に1－(3)、「主体的・対話的で深い学び」にかかわる学習活動の取り上げ方について、住生活「家庭内事故の防止」にかかわる内容を例に挙げ報告する。

まず、東京書籍180，181ページ。ここでは、図の中から家庭内事故につながる危険性のある所を、家族それぞれの立場を踏まえて生徒が考え出すページである。

教育図書212，213ページ。家庭内事故の危険性のある所を、家族それぞれの立場を踏まえ、50もの例を示している。

開隆堂242，243ページ。いくつかの家庭内事故の例を示し、その中から高齢者の立場に立ち、玄関とトイレにおける危険個所を考え出す活動である。それまでに学んだことを生かして、総合的に考え、交流し、検討する活動が仕組まれているのが、東京書籍である。

次に、2－(1)「主体的かつ協働的な学び」について、消費生活の購入時の意思決定の学習内容の取り上げ方で報告する。

まず、東京書籍207ページ。自転車の購入という高額で中学生にとっては必要感のある商品を取り上げている。生徒が比較検討するための情報は、値段、機能、支払い方法、保証内容、中古車の引き取り、購入場所など、様々な要素から総合して判断

する必要がある活動になっている。他者と話し合い、討論しても、迷いが生じる仕掛けがある。加えて206ページには商品に付けられたマークの紹介として、ヘルメットの例示、196ページでの導入など、この章全体を通じて自転車を中心教材として扱うといったストーリー性が感じられる。また、自転車乗用時のヘルメットの着用努力義務にも、生徒の意識を向けようとしていることが読み取れる。

教育図書227ページ。ブロッコリーとTシャツを例に、生徒らに選択のシミュレーションをさせる場面である。生徒が商品を比較検討するための情報として示されているのは、値段と、産地である。

次に開隆堂267ページ。スニーカーを例に挙げ、シミュレーションをしている。生徒に比較検討のための情報として、示されているのは、値段とデザイン、購入場所である。

最後、3—(1)について。ここでは、幼児、防災、高齢者の取り扱いを中心に、報告する。まず、幼児とのふれあいについて。幼児とのふれあいについては、岐阜市では主に中学3年生に位置付けて学習する。

東京書籍246, 247ページ。中学生の声のかけ方と、幼児の反応の例が写真とセリフで示され、実際の場面を思い描くことができるよう工夫されている。また、ふれあい活動のスタートから、さようなら迄の流れがわかる構成になっている。直接的なかかわり以外にオンラインなどでの実習例も写真で示されている。

教育図書60～63ページ。実際の触れ合いの場面の楽しそうな図や写真があり、生徒の実習への意欲を高める工夫がある。直接的なふれあい以外の方法は、文章で説明されている。

開隆堂63～65ページ。ふれあいの方法としては直接的なふれあい以外の方法が最も多く示されている。それぞれの方法や例示に、ふれあい方を工夫する内容や考える内容が文章で示されている。

次に、防災についての比較である。

東京書籍182～185ページ。地震に対する備えや、避難所や仮設住宅での生活について扱い、避難すること、自分の身を自分で守ることを中心に、東北大震災で被災した中学生の思いから、中学生としてできることを考える資料が示されている。

教育図書214～217ページ。実際の備えや身の守り方をワークブックのように記入させ、実生活に生かす工夫がある。扱いとしては自分の身と家族を守ることが中心である。

開隆堂246～255ページ。他の教科書より多い10ページを割き、避難の仕方についても、避難所、在宅、親戚への避難などの多様な例示がある。

また、地域の情報を集めること、災害後の生活の立て直しについても触れているところが他者との違いである。自分の身を守ることに加えて、255ページでは、中学生にもできることを考えさせている。

最後に、高齢者とのかかわりについての比較である。高齢者の介助の方法についてと、高齢者への理解についての比較である。

東京書籍 263 ページ。実際の高齢者を意識した介助の図がある。また、東京書籍 262 ページでは、生きがいを持って世界で活躍する高齢者についても触れている。

教育図書 27 ページ。実習の場面を想定して図示されている。教育図書 26 ページでは地域で中学生がよく見かける活躍の姿と、元気な高齢者を先輩として紹介している。

開隆堂 79 ページでは、介助の方法について、実習を想定した図を示している。また、開隆堂 78 ページ。起業した高齢者や、高齢者への支援によって夢をかなえる可能性を感じさせる内容が取り上げられている。どの教科書にも、高齢者に対する見方を広げる工夫がされている。

以上のことから、岐阜市の中学校で使用する家庭分野の教科書としては、東京書籍を推薦するものとする。

【教育長】

種目「家庭」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

【採択検討委員】

家庭科は生活に直結した教科で、衣食住や防災や消費者、福祉といった点で多くを学べる教科である。3-（1）にかかわって、家庭や地域貢献について学んだことを生かし主体的に取り組めるような実践力や実践意欲を身に付けるという点で、特に東京書籍が優れているということであったが、他の発行者でよい点があったら教えていただきたい。

【主任研究員】

どの教科書も同様であるが、家庭分野においては、学んだことを家庭生活や地域の一員として生かしていく場として「生活の課題と実践」というプロジェクト学習のようなものを取り入れている。それについては3者とも同じように扱っていて、地域でできることについて考えさせるような例示がある。

【教育長】

最後のまとめ表によると、着眼点1の（1）と（2）は3者とも◎が1つもないが、○なので何の問題もない。しかし、現在、岐阜市がやっている家庭科教育からすると「これがいい」という発行者は無いのか。全部◎でもよいのか、とりたてて特徴がないのか、教えていただきたい。

【主任研究員】

どの内容から学ぶのかは、それぞれの学校で決めることができる。内容ごとにまとまっているという点では、東京書籍は2つに分かれているという部分があるが、とくにそれでとりたてて優れているというわけではない。すべて◎でもよいが、秀でているかというよりは、一般的な内容であるということで○にした。

【教育長】

その他、無い。

【主任研究員】

発行者によって、内容の取り扱いにこんなに差があるとは驚いた。家庭内事故について、東京書籍では危険探しのヒントなどを提示して、あくまでも子どもたちが考えるといった内容になっている。他の教科書は、すべてを網羅しており、提示されたときに子どもたちは何も考える必要がない。場面、場面で子どもたちが主体的に考えるということを考えると東京書籍の提示の仕方がよいと考える。

【教育長】

それでは種目家庭の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。（全員挙手により承認）

続いて、教科「外国語」、種目「英語」の調査研究を報告願う。

【英語：主任研究員】

配布した資料について説明をする。教育出版の教科書に、メジャーリーグで活躍をしている大谷選手の通訳をしていた水原一平氏のページがあった。それについて、教科書会社から差し替える旨の通知があり、今、差し替えの部分配布した。実際の教科書では水原一平氏のところは除いたものが掲載されるということになる。なお、今回の調査研究の検討事項にはこの水原一平氏についての取り扱いはしていない。このことについては全く除外した中で研究調査をしたということをお伝えし、これから報告する。

学習指導要領に示された中学校外国語科の目標である「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことを念頭に、岐阜市の生徒にとって、どの教科書が最もふさわしいか、御覧の調査項目、着眼点、調査方法を設定し、調査研究を進めてきた。どの教科書も基本的な構成として、単元ごとに絵や写真等を使ったりしながら課題を提示する導入から始まり、パートごとに基本表現を身に付けるために聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を繰り返した行った後、単元末の言語活動を設定している。

はじめに、それぞれの教科書の特徴、よさについて説明する。調査研究資料④。東京書籍は、全学年において、4技能5領域の活動が十分に位置づけられており、題材は発達段階に合った適切なテーマ設定がされている。

三省堂は、基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動と、4技能5領域のバランスに配慮して思考力・判断力・表現力を育成する活動が位置づけられている。

開隆堂は、巻末資料が豊富にあり、自己表現活動で使えるような単語や熟語、対話で使用する表現や対話の流れなどが多く掲載されている。

光村図書は、単元の目標に応じた言語活動では、目的・場面・状況や「中間振り返り」のヒントが明示されており、思考力・判断力・表現力を育成しやすくなっている。

啓林館は、全体を通して、「聞くこと」を問う設問が多く設定されており、理解した内容について第三者に伝える活動が設定されている。

教育出版は、興味・関心・経験を発信できるように、単元末のページで言語活動が位置づいている。

このように、各者のよさの概略をまとめたが、4項目、10の着眼点に基づく評価結果については、資料⑤の通り。一覧にあるように、調査の結果、総合的に最も高い評価を得たのは、東京書籍となった。

先に述べた通り、すべての教科書において基本表現を身に付けるための活動の後、単元末でその表現を使ったまとめの言語活動が設定されている。この単元のまとめの言語活動が、生徒にとって魅力的で、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することができるものかどうか教科書選定の重要なポイントとなる。

これより、調査項目3の着眼点(1)「岐阜市の生徒の実態等に適した教科書図書」について、単元のまとめのページにおける各者の言語活動の主な特徴について説明する。共通して、2年生の「将来の夢や自分の目標」に関する単元の終末のページを取り上げる。それは、令和5年度の全国・学力学習状況調査の質問紙において、岐阜市の中学生が、「将来の夢や目標をもっている。」の項目で、当てはまると答えた割合が全国に比べて低い値であったからである。

まず、東京書籍。2年生36ページ。職業体験についての題材を学習した後の単元の出口の活動として、「10年後の自分へのメッセージ」を位置付けている。自分の好きなことや得意なことをリストアップし、10年後の自分へのメッセージを書いて、ペアで読み合う活動が設定されている。

次に、三省堂。2年生38, 39ページ。職場体験についての題材を学習した後の単元の出口の活動として、「My Dream」を位置付けている。始めに、夢についてのスピーチを聞き、それを参考にして自分が将来したいことや夢について原稿を作って、動画に撮影することが設定されている。

開隆堂。2年生72, 73ページ。職場体験についての題材を学習した後の単元の出口の活動として、職場体験の振り返りを絵の吹き出しをもとにペアで考える活動が設定されている。

啓林館。2年生72ページ。職場体験についての題材を学習した後の単元の出口の活動として、「将来の夢・目標について書こう」を位置付けている。始めに教科書の登場人物の将来の夢についての英文を読み、自分の夢や目標について英語で書く活動が設定されている。

教育出版。2年生58ページ。職場体験についての題材を学習した後の単元の出口の活動として、教科書の登場人物の職場体験のまとめを英語で書き、自分がおもしろいと感じていることや難しいと思っていることなどを英語で発表する活動が設定されている。

最後に光村図書は、残念ながら、1年生から3年生の教科書で、将来の夢や目標に関する単元はなかった。

このように、同じ「将来の夢や目標」をテーマにした箇所を比較すると、設定された言語活動や構成の仕方に特色があることが分かる。

それでは、もう一度、東京書籍2年生36ページ。36ページ冒頭には、「好きなことや得意なことをもとに自分の将来について考えて、『10年後の自分へのメッセージ』を書きましょう」と、この授業の学習課題が明記されている。岐阜市の中学生の課題である「将来の夢や目標をもっている」について「当てはまる」と答えた生徒が少ないのは、自分に対する肯定感の低さや将来の希望や夢について考える機会の少なさが要因であると考えられる。36ページには、まず始めに自分の好きなことや得意なことをリストアップし、自分に合うと思う仕事や将来像について考える場を位置づけ、ただ単に表面的な職業選びではなく、自分について深く考える場が設定されている。次に、10年後の自分へのメッセージを書きペアで交流する活動があり、中学校2年生ではっきりと将来希望する仕事が見つからない生徒も、10年後という近い将来について仕事だけでなく自分のやりたいことや伸ばしたいことも含めて考える機会は、それぞれの生徒の実態や生き方に合った設定になっていると考えられる。

このように、東京書籍の教科書は、他者と比較し、岐阜市の生徒にとって、夢や希望をもてるような題材を設定したり、学習課題を解決するための支援を段階的に設定したりするなど、きめ細やかな配慮がなされていることが分かった。

次に、調査項目1 着眼点(2)「他教科等の学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性」について。

東京書籍と、2番目に総合評価の高かった、三省堂を比較して説明する。

まず、東京書籍。3年生 42、43ページ。東京書籍では、年間3回ほど、関係する単元の次に「Stage Activity」というページがどの学年にも位置付けられている。42、43ページでは、日本の文化について紹介するために、始めに生徒がイメージしやすいように動画で目的・場面・状況を確認し、次に紹介する日本文化の情報を教科書のマッピングを参考にメモ形式でまとめ、3つの段階に分かれた例文をもとに情報を整理して英文を書きパンフレットを作成し、最後にグループで紹介したり感想を交流したりする活動が設定されている。

次に、三省堂。3年生 36、37ページ。三省堂でも、年間3回ほど、関係する単元の次に「Project」というページがどの学年にも位置付けられている。36、37ページでは、アメリカから初めて日本に来るアメリカ人の友だちにおすすめする旅行プランを作成するために、友だちのプロフィールの英文を読み、教科書の日本人の登場人物の提案を参考に自分で旅行プランを英文で書きグループで発表する活動が設定されている。

このように、東京書籍は、まとまった単元の出口の活動についても、他者と比較し、生徒が理解しやすい導入の工夫や主体的に学習するための細かいステップがどの単元でも示されており、さらに順序だてて書くための導入、説明、感想という3段階の流れが1年生から色分けをして教科書に示されている。

また、東京書籍3年生の3ページにあるように教科横断的に学べるページが全学年に数回位置付けられている。例えば、3年生の40ページでは、理科の内容を英語で学ぶページがあり、さらにグラフや図から概要を読み取る内容になっている。

最後に、調査項目2 着眼点(3)「ICTを活用した学習活動の充実」に関わり、学習者用デジタル教科書の特徴について説明する。各者ともに、音声・動画再生機能については、生徒が聞きたい英語を選択したりするなどして、個別最適な学びを行うことができる。中でも、東京書籍の「デジタルマップ」では、名物や文化などリーディング素材集があり他者に伝える活動の際視覚的に活用ができ、用例辞典やWord Roomなど利用し、1000語の語句のイラストと音声や使用例を自宅学習で確認することができるなど、他者と比べて、より多くの様々なコンテンツが準備され、学習のサポートが充実していると言える。

以上、東京書籍が他者と比較して良いと考えられる理由についてポイントを絞り説明してきたが、総合的に判断し、岐阜市の生徒たちにとって、東京書籍の教科書が最も望ましいということ、私たち調査研究委員会の見解として報告させていただく。

【教育長】

種目、英語についての調査研究報告について質問意見を受ける。

【採択検討委員】

今、自分たちの子どもは、まだ小学生なのだけれど、自分も海外に行った経験があり、先ほどの調査研究の中でも、日本の文化を勉強して改めていいことを見つけて、それを英語で伝えるということがあった。私は、海外に行ってきて、日本人の良さを再認識した。こういう勉強ができるのは、とても良い。

【採択検討委員】

私は、元は英語教師だ。今の教科書で、英語を指導しなければならなくなったら、到底できないと思った。なぜかという、昔は、ワークブックを配布し、その内容に従って学習を進めていた。英語教員のクリエイティビティはどこにあるのかと考えていた。教科書見本を見て、多様性が無くワンワールドみたいでシンプルな内容であった。しかし、最低限の活動ラインが引かれているわけでもなく、クリエイティブな英語教育がやりにくくないかと感じた。その辺はどうか。議論とはならなかったか。多分、完成度でいうと、ホライズンとか、開隆堂の方が、質は高いと思う。しかし、ホライズンの内容を子どもたちに活用しきらせることは難しいと感じた。淡々と説明して終わるような気がした。その辺の議論はどんな感じか。

【主任研究員】

当然、議論はした。教科書は、それぞれの会社の特徴があって、それをどう活かすかというのが教師の力量。ただ、今回、調査において注視したのは、調査研究資料①にあるような、資質・能力の三つの柱をいかに育成していくのか、他教科等での学びや他学年での学びとの関連性や、主体的、対話的で深い学びを、いかに生徒たちがこの題材をもとにして進めていくことができるかということ考えた。

最後の活動については、教師の裁量によってふくらませることもあるが、これから先、若い教員もいたりベテランの教員もいたりというような形になってくると、裁量の大きさが教員だけのことになってしまうと、生徒たちへの差が出てきてしまうという恐れもある。

もう一つは主体的な学びということで、先ほど説明した東京書籍の教科書には、確かに細かいとか盛りだくさんというところはあるが、非常に細かいステップを踏んでいくところが多くある。だから、生徒たちが自分で学ぼうとか、学び方を考えていこうとするときに教科書を見ながら進めることができる。最も重視するのは、生徒自身の主体的な学びや個別最適な学びである。協働的な学びも大切。そんなことを重視して調査をした結果として東京書籍が優位であった。

【採択検討委員】

私は英語が苦手だが、このあいだ小学校の英語の授業を見に行ったときに、中学生より喋れるなという衝撃を受けた。そのとき、私自身も子どもの頃ニューホライズンを使ったなという覚えがあり、今、じっくりとニュークラウンを見たときに、この文法で喋らなければいけないということではなく、もっと自由に、自分の話したいことを話せばいいんだよというようなニュアンスが伝わってきた。そう考えると英語の研究会でも、文法を使わせたいわけではなく、自分の伝えたいことがニュアンスで伝わればいいということを重視していると聞いたので、ニューホライズンだと、少し難しいような印象を受けた。個人的にはニュークラウンぐらいの書き振りで、こういうことを話せば良いとか、こういう準備をしておけば良いということが伝わってきたほうが話しやすいと思った。

【主任研究員】

最後にやはり迷ったのは、我々の調査の中でもニュークラウンとニューホライズン、この二者が他の会社にくらべて抜きん出ているということであった。今、意見があったようにニュークラウンにはニュークラウンの良さがある。例えば、題材についての良さというのは、ニュークラウンのほうが適している部分もある。それからニューホライズンについては、バランスが良く、段階的に学習がすすめられるという良さがある。ただ意見のあった「自由に」ということについては、もちろんこれは1つのひな形ではある。実際には生徒たちには、教科書をもとに進めていこうとするが、教科書に縛られている授業は展開していないと考えている。どちらかというと英語は、学力差がしやすい教科であるため、話せる生徒は、どんどん話していいよという形のアプローチができる。逆に苦手な子たちは、段階を踏む形を示してあげた方が分かりやすい。よって、調査研究の結果、東京書籍が優位であった。

【事務局】

事務局から1点確認。先ほど着眼点の3の1の説明があったとき、光村図書について記述がなかったという表現があった。評価表を見ると、◎がついている。この点については、他の部分で岐阜市の子どもたちに適した指導ができるという理解でよいのか。

【主任研究員】

これについては、他の観点ではなく、同観点の内容の違いによる。例えば、文化を扱っているとか、題材の内容について岐阜市の子どもたちにあっているということで◎にした。

【教育長】

その他よろしいか。それでは種目英語の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて承認を頂けるか。承認いただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認) 続いて、教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」の調査研究を報告願う。

【道徳：主任研究員】

岐阜市の「道徳教育」の指導では、「自己を見つめ、自己の人間としての生き方を深める学習を通した、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成」が求められている。今回の調査研究は、こうしたポイントを着眼点に位置付けるとともに「岐阜市教育大綱」及び「第4期岐阜市教育振興基本計画」等を参考に、画面のような4つの調査項目、10の着眼点を設け、「生徒にとって充実した道徳科となる教科書としてどうか」「先生方にとって道徳科の授業改善を図る教科書としてどうか」について調査研究した。「特別の教科 道徳」の教科用図書について、見本本として7者から送付があったため、まず各者の特色について説明する。

東京書籍は、3学年ともに、ユニット「いじめのない世界へ」を設けており、いじめ問題を直接的に扱う3つの教材を通していじめ問題を多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。画面は、1年生106ページのp4c。このように、全学年に「プラス」のページで哲学対話(p4c)として行うコラムが配置され、生徒主体の話し合いの流れが記載されている。画面は、2年生40ページ教材「一冊のノート」のプラスのページ。このように役割演技ができるコラムもあり、登場人物の気持ちを体験し、道徳的価値に迫ることができるようになっている。また、二次元コードにアクセスして、「音声朗読」「ワークシート」「補足資料(資料・動画・写真)」「心情円」「他教科等とのリンク」が、豊富に用意されており、導入や終末で使える動画資料や、直感的に操作できる思考ツールが用意されている点も本書の特徴。

教育出版では、学年の発達段階に合わせて重点的に扱う教材を設定している。全学年に「さあ道徳をはじめよう」があり、自我関与したり多面的・多角的に考えたりすることのよさをわかりやすくまとめている。また、どの教材にも「導入」と「学びの道しるべ」が設けられている。画面は、1年生22及び25ページの教材「二人の言い分」の学びの道しるべ。このように、学習前と学習後の考えや心の変容を生徒自身が実感できるようになっている。「いじめ」問題については、相互理解や公正・公平なものを見方を育む教材を中心に多様な内容項目で位置づけられており、どの学年にも身近で起こりそうな場面を通して、自分事として捉え直す話し合いができるように、「ひろば」が位置づけられている点も本書の特徴である。

光村図書は、どの教材でも授業の流れを意識した発問を設定してある。特に「見方を変えて」「つなげよう」は自我関与したり多面的・多角的に考えたりしやすく設定されている。画面は、2年生46、47ページの教材「テニス部の危機」。このように2人の思いを示すことで、多面的・多角的に考えやすくなる工夫がされている。また、「チャレンジ」「コラム」「やってみよう」を多数用意がされており、役割演技や体験活動、議論などを取り入れて、多面的・多角的に考えやすくなっている。いじめ問題

については、様々な内容項目で位置づいている。画面は、1年生44ページの教材「いつもの教室の中で」。このように特に、公正・公平なものの見方を育む教材が多く掲載されている。巻末に「まなびの記録」があり、生徒自身が1年間の目指す姿を明確にし、毎時間の記録を残し、学年末に「まなびの記録」に記載することができるようになっていている点も本書の特徴。

日本文教出版は、「いじめと向き合う」「よりよい社会を生きる」の2つについて、3学年それぞれにおいて、異なる内容項目で年間を通して、重点的に学ぶことができるように工夫されている。特に「いじめと向き合う」ユニットでは、ユニットを複数回設定し、繰り返し考えることができる構成となっている。画面は、2年生43ページ教材「リスペクトアザース」の「考えてみよう」。このように、生徒が問題意識をもてるよう、各題材で「考えてみよう」を手がかりに自分で考えたうえで、話し合い、さらに考えを深める場面が設定されている。そのうえで、「自分に+1」で話し合いの際に生まれた新しい考えや、これから大切にしたいことを考える場面が設定されている。また、「心情メーター・シンキングツール・フリーワークノート」といった思考ツールや、毎時間自分の考えを記述することができる別冊ノートで、自己の考えを書く時間や、まとまった期間で振り返ることができるようにしている点も本書の特徴。

学研は、自我関与したり多面的・多角的に考えたりできるように「深めよう」「クローズアップ」を全学年複数用意されている。画面は、1年生117ページ教材「公平とは何だろう」の「深めよう」。このように、どの学年にも身近で起こりそうな場面を通して、自分事として捉え直す話し合いができるように役割演技、グラフ等視覚的な資料から考えるように設定している。画面は、1年生175ページ教材「捨て犬・未来」のクローズアップ。このように、教材の内容項目に関わる別の視点から考えることができるように設定されている。また「いのちの教育」と「いじめ防止」を重要テーマとしている。1年生42ページの右下のように、マークで示し、【生命の尊さ】を中心に、【友情、信頼】や【公正、公平】に関わって、ものの見方を育む教材が多く掲載されている点も本書の特徴。

あかつき教育図書は、「生命尊重」と「いじめ防止」は最重要課題とし、特に関わりの深い【自主、自律、自由と責任】や【思いやり、感謝】、【生命の尊さ】、【よりよく生きる喜び】の内容項目が多数配当され、重点的に扱っている。画面は、3年生32ページ教材「卒業文集最後の二行」。このように、読み物教材を中心に読みごたえのある教材が多く、生徒の心に染み入る教材、新たな視点を与える教材が配当されている。教材から感じたことを見つめ、主体的・対話的な学びを促す場面となるように、発問を「自分を見つめて考える」や「いろいろな見方で考える」「自分との対話」と設定している。画面は、先ほど示した教材「卒業文集最後の二行」の自分との対話。このような発問が、自我関与したり、多面的・多角的に考えたりしやすくなっている点も本書の特徴。

日本教科書は、教材を内容項目に合わせて、A1からD22の順に配置されており、各学校の実態に合わせて指導計画を立案しやすくなっている。全学年に「クラスのみ

んなと『道徳授業』を創り出そう」のページがあり、自我関与したり多面的・多角的に考えたりする学びの指針となっている。また、画面は、1年生156ページのウェルビーイングカード。このウェルビーイングカードは、生徒の考えを可視化するために有効な手立てとなっている。各教材の最後には、「深めよう」が位置づいており、メモ欄を活用して、自分自身や道徳的諸価値について振り返ることができるようになっている。「いじめ」問題については、公正・公平なものを見方を育む教材をはじめ、様々な内容項目で位置づけられているのも本書の特徴。

以上のように各者の教科用図書を調査研究した結果、高い評価を得たのは、「東京書籍」と「日本文教出版」であった。続いて着眼点にそって、この2者のどちらが岐阜市の生徒、教師にとって最もふさわしいかについて、さらなる精査を行った。

はじめに、調査項目1－(1)「特別な教科道徳」の目標である「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳の実践意欲」(道徳性)の育成について説明する。

東京書籍は、多面的・多角的に考えるために、グラフを用いたり、別の立場について考えたりする教材が複数設定されている。1年生の教材29ページ「風評被害」では、漫画を用いて考える。生徒たちは、絵と吹き出しから、話の場面を想起できるため、自我関与しやすくなっている。また、38ページ「PLUS」の時間では、役割演技する場が設定されているため、多面的・多角的に考えることができる工夫がある。

一方、日本文教出版は、各教材の終末に「自分にプラス1」として、発問が用意されており、生徒が自我関与したり、多面的・多角的に考えたりすることができるようになっている。「学びを深めよう」の時間には、役割演技や体験活動、議論する場などが設定してあり、1年生の教材30ページ「さかなのなみだ」では、いじめについて議論する場が位置付けてられており、生徒が様々な視点で考えることができる。また、そのあとの35ページ「視野を広げて(コラム)」を教材の学習後に位置付け、学びを別の視点から考えたりつなげたりできるよう工夫されている。

次に1－(2)生徒の発達的特質に応じた内容項目の位置付け、内容項目の重点化については、「東京書籍」、「日本文教出版」どちらも学習指導要領の内容項目が過不足なくおさえられており、特に、どちらも内容項目「生命の尊さ」については、重点的に扱っている。加えて、「日本文教出版」では、内容項目「社会参画、公共の精神」について、3年生において複数回とりあげられている。

続いて1－(3)道徳的価値の理解を深めるために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について説明する。

東京書籍は、3年生12ページの学習の流れで示されているように、各教材に「考えよう」を位置付け、多様な意見を引き出すことができる中心発問が設定されている。また、「見つめよう」では教材から離れて自分を見つめる場での発問が設定されている。さらに、「考えようをぐっと深める」では、人間としての生き方を深く考えるための手助けとなる補助発問として位置付けられている。

一方、日本文教出版は、3年生5ページの「どうやって学ぶの？」の説明で示されているように各教材での「考えてみよう」を位置付け、それを手がかりに自分で考え

た上で、話し合い、考えを深めることができるようになっている。また、「自分にプラス 1」では、話し合いで生まれた新しい考えや、これから大切にしたいことを考える場として、位置づけられている。3年生の教材112ページ「学びを深めよう」のように、話し合いや演技を見るときや考えを話すときの視点などを示し、深い学びの具現に向けた手がかりとなっている。

続いて3-(1) 岐阜市の生徒の実態等に適した教科用図書について説明する。私たちは、岐阜市教育大綱基本方針から、生命の尊厳への理解を深めることに着眼点を置き、「いじめ」に関連する内容について調査した。

東京書籍は、いじめに関連する教材を各学年3ずつ扱っている。この3教材とコラムでユニットを編成している。画面は、1年生28ページ、教材「傍観者でいいのか」の「プラス」。この読み物で、いじめの構造を示し、生徒が思考を整理しやすくなるよう設定されている。

一方、日本文教出版は、いじめに関連する教材を1年生で6つ、2年生5つ、3年生4つずつ扱っている。これらの教材とコラムでユニットを編成している。ユニットは、1年生では3ユニット、2, 3年生は2ユニット組まれているため、年間を通じて、いじめについて考えることができる。また、「視野を広げて」では、3年間を通じて、自分の感情と上手につきあう方法を考える場を設定されている。

最後に、4印刷・製本等について、東京書籍は、A B版サイズ210mm × 257mmの大きさで、1～3年生の教科書の平均重量は、382.7g。一方、日本文教出版は、B5版サイズ182mm × 257mmの大きさで、平均重量は、305.6gだった。「日本文教出版」の方が、横幅が若干短く、約80g軽量である。

以上のような調査結果に基づき、日本文教出版の「あすを生きる」が、岐阜市の中学生、先生方に一番ふさわしい教科書であるという結論に至った。

【教育長】

種目「道徳」における調査研究報告について質問、意見はあるか。

【採択検討委員】

2者を比較したとき、日本文教出版が岐阜市の子どもたちにとって適切であるということはよく分かった。例えば、いじめについて日本文教出版の1年生の34ページでは、被害者、加害者、観衆、傍観者、仲裁者がいるのは、岐阜市が指導している内容と重なっていて先生方も指導しやすいだろうと思う。同じく1年生4ページの学習の仕方が書いてある真ん中の段のところに「確かに人間には弱いところと強いところある」という書き方があって、多くの子は、こういうことをするといいと分かっているけどできない。そういったところには、必ず阻害要因の心の弱さがあるが、それは岐阜市が大切にしている人権教育にも関わっており、こういう弱さに着目させようというとは大変分かりやすいと思った。質問したいことは、学校現場が困っている内容として、「考え、議論する道徳」はどういうことか分かりにくいということがあるが、2者をくらべてこの視点での工夫に違いがあれば教えてほしい。

【主任研究員】

2者で比べたときには、日本文教出版は、話の流れが教科書の中であった。東京書籍については、p4c という手法が取り上げられている点が特徴。日本文教出版の方は、役割演技などいろいろなところで生徒に自分の考えをもたせる、初めところや学習の後のところで自分を振り返るといったところが充実している。

【教育長】

採決する。種目「道徳」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。（全員挙手により承認）

続いて、小学校で来年度使用することになる教科用図書の採択にかかわって確認をさせていただく。

【事務局】

前回の検討委員会でも話題にさせていただいたが、小学校用教科用図書は、本年度採択替えの年度ではない。したがって、次年度も本年度使用している教科書を使用することとされている。

そこで、昨年度、採択し、本年度から使用している教科書について、学校現場で実際に使用して指導している教員や指導主事からの意見を参考に、適切に採択を行うこととなる。現場から問題があるといったことは聞いておらず、現行使用している教科書の全教科について特段の大きな問題点はない。

「令和6年度に使用している教科書を継続して採択し、令和7年度も使用すること」について、ご審議のほどよろしく願います。

【教育長】

それでは、来年度使用する小学校教科用図書についての質問・意見を受ける。質問・意見はないか。（質問無し）

【教育長】

それでは、採決する。昨年度、採択した小学校用教科用図書を来年度も継続使用することについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。

（全員挙手により承認）

【教育長】

では、今回の小学校の教科用図書の調査結果及び中学校の教科用図書の調査結果については、「教育委員会定例会」に議案として報告する。

以上をもって、本日の議題は終了し、司会を事務局に返す。

【事務局】

情報公開について。先にも言ったとおり、9月1日以降、本会の議事録は公開の対象とさせていただく。なお、本会の日程、協議内容等は8月31日までは極秘となっているので、秘密厳守でお願いしたい。本日の資料も会終了後に回収させていただく。